

令和4年度

事業報告

日本赤十字社滋賀県支部

日本赤十字社の使命

わたしたちは、
苦しんでいる人を救いたいという思いを結集し、
いかなる状況下でも、
人間のいのちと健康、尊厳を守ります。

わたしたちの基本原則

わたしたちは、世界中の赤十字が共有する7つの基本原則にしたがって行動します。

- 人道：人間のいのちと健康、尊厳を守るため、苦痛の予防と軽減に努めます。
- 公平：いかなる差別もせず、最も助けが必要な人を優先します。
- 中立：すべての人の信頼を得て活動するため、いっさいの争いに加わりません。
- 独立：国や他の援助機関の人道活動に協力しますが、赤十字としての自主性を保ちます。
- 奉仕：利益を求めず、人を救うため、自発的に行動します。
- 単一：国内で唯一の赤十字社として、すべての人に開かれた活動を進めます。
- 世界性：世界に広がる赤十字のネットワークを生かし、互いの力を合わせて行動します。

わたしたちの決意

わたしたちは、赤十字運動の担い手として、
人道の実現のために、
利己心と闘い、無関心に陥ることなく、
人の痛みや苦しみに目を向け、
常に想像力をもって行動します。

目 次

はじめに	1
I 支部事業・一般会計決算概要	2
1 新型コロナウイルス感染症への対応	2
(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援	2
(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣	2
(3) 赤十字病院での感染者等受け入れ	2
(4) 県内赤十字医療施設に対する支援	2
(5) 支部の各事業における主な取り組み	3
2 評議員会並びに監査等の実施	4
(1) 評議員会の開催	4
(2) 監査委員による監査の実施	4
(3) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席	5
(4) 支部名誉職員名簿	6
3 全国赤十字大会への参加	6
4 会議・職員研修会の開催	7
(1) 会議の開催	7
(2) 職員研修会の開催	8
5 会員増強運動の推進と実績	9
(1) 会員増強運動の推進	9
(2) 令和4年度活動資金募集実績	9
(3) 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績	11
(4) 法人活動資金募集の実績	11
(5) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進	12
(6) 赤十字会員数	13
(7) 有功章等受章者数	13
6 災害救護活動	13
(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況	13
(2) 義援金、海外救援金の受付状況	14
(3) 救護資機材の整備	14
(4) 訓練及び研修	14
(5) 救護員の登録状況	16
(6) 救護資材整備状況及び救援物資備蓄状況	17
7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及	17
(1) 救急法	17
(2) 健康生活支援講習	17
(3) 幼児安全法	18
(4) 水上安全法	18
(5) 講習指導員の研修	18

(6) 各種講習指導員数	18
(7) 防災教育の普及	18
(8) 滋賀県安全法指導員協議会	19
8 赤十字奉仕団	19
(1) 設団状況	19
(2) 地域赤十字奉仕団の活動	20
(3) 青年赤十字奉仕団の活動	24
(4) 滋賀県無線赤十字奉仕団・滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動	25
(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動	26
(6) 個人ボランティア	27
9 青少年赤十字	28
(1) 加盟校の状況	28
(2) 青少年赤十字創設100周年記念事業の実施	28
(3) 青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催	29
(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況	30
(5) その他の会議・行事等	30
(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業	31
(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行	31
(8) 青少年赤十字顕彰碑を改修	31
10 看護師の教育	31
11 國際活動	32
(1) 「NHK海外たすけあい」キャンペーンの実施	32
(2) 令和4年度第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加	32
12 赤十字思想の普及	32
(1) 本社作成の広報資材の配布	32
(2) 支部作成の広報資材の配布	33
(3) 世界赤十字デー周知キャンペーン	33
(4) 主な広報活動	33
(5) 「ACTION！防災・減災」キャンペーン	34
13 有功会	35
(1) 会員の数（個人・法人）	35
(2) 事業内容	35
14 一般会計決算概要	37
II 医療事業・医療施設特別会計決算概要	38
1 大津赤十字病院	38
2 大津赤十字志賀病院	41
3 長浜赤十字病院	44
III 血液事業概要	47
滋賀県赤十字血液センター	47

はじめに

新型コロナウイルス感染症が確認されて、3年目となった令和4年度も多くの新規感染者が報告され、全国の赤十字病院では、引き続きスタッフが緊張感を持ちながら献身的な努力を続けてまいりました。

また、コロナ禍の中、災害救護活動や救急法・健康生活支援講習等の講習、赤十字奉仕団や青少年赤十字の活動などについては、創意工夫を凝らしながら、着実に推進するとともに、血液事業も、未だ企業献血等が中止となる中において、多くの関係者の皆様のご理解、ご協力により、安定供給をすることができました。特に、令和4年度は、日本での青少年赤十字の誕生から100周年を迎える、発祥の地である守山市内において、感染対策を徹底しながら、青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会を盛大に開催することができ、活動の更なる推進の契機となりました。

こうした活動に対して、多くの県民の皆様や企業・団体の方々から、励ましのメッセージや様々な形でご支援をいただき、第一線の職員には大変大きな支えとなりました。

世界では、様々な紛争や気候変動に伴う自然災害、人道危機などの課題に直面し、また、日本では、自然災害の頻発化、激甚化に加え、人口減少や少子高齢化などの課題に直面しています。

日本赤十字社は、今後とも、社会情勢の変化とともにこうした課題を見据えつつ、歴史と伝統ある赤十字の歩みを止めることなく、私たちの活動に期待し、信頼を寄せてくださる多くの方々の想いに応えられるよう、チャレンジ精神を持ちながら、「人道」を基本理念にした活動を積極的に展開してまいります。

赤十字活動を財政面で支えていただいている赤十字会員の皆様、活動推進の担い手である赤十字奉仕団等のボランティアの皆様、赤十字活動を総合的に支えていただいている地区・分区等関係者の皆様、並びに多くの県民の皆様には、日頃からの力強いご支援に心から感謝申し上げます。

ここに、令和4年度の日本赤十字社滋賀県支部事業を報告いたしますとともに、引き続き皆様からの温かいご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和5年5月

日本赤十字社滋賀県支部

I 支部事業・一般会計決算概要

1 新型コロナウイルス感染症への対応

新型コロナウイルス感染症は、令和4年度においてもオミクロン株により、第7波、第8波が発生するなど猛威をふるいました。

滋賀県支部および赤十字医療施設は、令和3年度に続きこのような状況に対応するため次のような活動を実施しました。

(1) 滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへの支援

滋賀県からの要請に基づき、感染者の入院先調整業務等を支援するため、以下のとおり滋賀県COVID-19災害コントロールセンターへ大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣しました。

派遣期間	施設名	活動場所	人 数
4月1日～3月31日	大津赤十字病院	滋賀県危機管理センター	医師27人、看護師38人、業務調整員54人
4月1日～3月31日	長浜赤十字病院	滋賀県危機管理センター	医師21人、看護師10人

※派遣人数は延べ数

(2) 無症状者・軽症者向け宿泊療養施設への医療従事者の派遣

滋賀県からの要請に基づき、軽症者等の宿泊療養施設（大津市および彦根市）での受け入れ支援のため、大津・長浜の各赤十字病院から職員を派遣しました。

派遣期間	施設名	活動場所	人 数
4月1日～3月31日	大津赤十字病院	大津市	医師53人
4月1日～3月31日	長浜赤十字病院	彦根市	医師80人、看護師17人

※派遣人数は延べ数

(3) 赤十字病院での感染者等受け入れ

大津、大津志賀、長浜の各赤十字病院では、厚生労働省をはじめ各行政機関からの要請に応じ、帰国者・接触者外来の設置や新型コロナ対策病床の拡充を行い、感染者等の受け入れと治療にあたっています。

＜参考＞ 病床数:大津20床、大津志賀20床、長浜22床

(令和5年3月31日時点)

(4) 県内赤十字医療施設に対する支援

滋賀県支部は、感染症患者を受け入れ続け治療にあたる県内赤十字医療施設の新型コロナウイルス感染への対応を強化するため、感染症対策に必要な資機材の購入等に対して資金の支援を行いました。

- | | |
|-------------|-------|
| ア 大津赤十字病院 | 300万円 |
| イ 大津赤十字志賀病院 | 300万円 |
| ウ 長浜赤十字病院 | 400万円 |

(5) 支部の各事業における主な取り組み

ア 特設サイトの更新

新型コロナウイルス感染症に対する滋賀県内の赤十字施設の取り組みについて取りまとめた特設サイトを随時更新しています。

イ 新型コロナウイルス通信の発出

特設サイトの記事を広く知りたいことを目的として、地区分区窓口へ新型コロナウイルス通信を発出し、県民の皆様に、滋賀県支部における新型コロナウイルスへの取り組みや感染症の状況などについてお知らせしました。

ウ コロナ禍での地域赤十字奉仕団の取り組みをまとめた動画を作成

県内の地域赤十字奉仕団員のコロナ禍での取り組みをまとめた動画を作成し、支部公式YouTubeチャンネルに掲載しました。閲覧対象を限定することなく広く情報を発信することで、奉仕団活動の「見える化」を図りました。

① 名 称 「コロナ禍における地域赤十字奉仕団のあゆみ～令和2・3年度～」

② 主な内容 マスク作製、感染症対策用品作製、ワクチン接種会場での奉仕活動、コロナ禍でのユニークな取り組みの紹介など

③ 時 間 7分26秒

エ 地域赤十字奉仕団の主な取り組み

① 奉仕活動

主 な 活 動 内 容	奉仕団数	延べ人数
ワクチン接種会場での活動	2	516
感染症対策用品の作成および寄贈 (消毒用タオル・防護用ガウンなど)	6	291
小学校や施設での消毒ボランティア	1	19
コロナ感染による差別を防ぐための人権教育を実施	1	96
コロナ禍で家にいる時間が長くなっている高齢者に対する支援(見守り活動の強化など)	7	399
感染予防の観点から自作動画による炊き出し研修を実施	1	40

② 「新型コロナウイルス感染症に対する日本赤十字社の対応に関する記録とりまとめ」にかかるヒアリング

県内の地域赤十字奉仕団がコロナ禍においても工夫して活動を展開していたことから、上記の記録集に滋賀県の取り組みが掲載されることとなり、取り組み内容やコロナ禍での地域ニーズの把握方法等についてのヒアリングを受けました。

- ・調査実施日 令和4年10月17日
- ・調査対象者 県支部委員長 1人、支部職員 2人
- ・調査実施者 株式会社日本総合研究所

2 評議員会並びに監査等の実施

(1) 評議員会の開催

開催月	開催方法	議案等	
(第1回) 令和4年6月16日	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案	令和3年度事業報告及び歳入歳出決算について (監査委員監査報告書を添付)
(第2回) 令和5年2月14日	滋賀県農業教育 情報センター	第1号議案 第2号議案	令和5年度事業計画について 令和5年度歳入歳出予算について

(2) 監査委員による監査の実施

令和3年度の業務の管理及び執行並びに会計について監査委員による監査を実施しました。

(日本赤十字社が会計の監査を委託している監査法人の監査概要を添付 (ただし滋賀県赤十字血液センターは除く))

監査対象施設

日本赤十字社滋賀県支部

大津赤十字病院

大津赤十字志賀病院

長浜赤十字病院

滋賀県赤十字血液センター (滋賀県赤十字血液センターは、業務監査のみ実施)

監査実施日

令和4年6月3日(金)

監査実施場所

日本赤十字社滋賀県支部会議室

(3) 日本赤十字社理事会・代議員会等への出席

名 称	開催日	会 場	出席者 (対象者)	内 容
日本赤十字社 理事会	6月24日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口理事	<p>I 付議事項</p> <p>1. 第100回代議員会に付議する事項について (1) 役員の選出 (2) 令和3年度事業報告及び収支決算の承認</p> <p>II 常任理事の互選</p> <p>III 報告事項</p> <p>1. 予算の補正にかかる社長専決事項の決定状況について</p>
日本赤十字社 第100回代議員会	6月24日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口代議員 中村代議員	<p>第1号議案 役員選出について</p> <p>第2号議案 令和3年度事業報告及び収支決算の承認について</p> <p>報告事項 (1) ウクライナ人道危機について</p>
日本赤十字社 理事会	11月25日 (金)	東京都・ 芝パーク ホテル	坂口理事	<p>I 報告事項</p> <p>1. 令和4年度上半期事業報告について 2. 令和4年度NHK海外たすけあいについて 3. 予算の補正にかかる社長専決事項の決定状況について</p> <p>II 欠員の常任理事の指名</p>
日本赤十字社 理事会	3月17日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口理事	<p>I 付議事項</p> <p>1. 規則の改正について (1) 日本赤十字社本社組織規則の一部改正 (2) 日本赤十字社社会福祉施設規則の一部改正</p> <p>2. 第101回代議員会に付議する事項について (1) 役員の選出 (2) 令和5年度事業計画 (3) 令和5年度収支予算</p> <p>II 常任理事の互選</p> <p>III 業務執行理事の指名</p> <p>IV 報告事項</p> <p>1. 社長が決定した補正予算について 2. 社長が決定した諸規程の一部改正について</p>
日本赤十字社 第101回代議員会	3月17日 (金)	東京都・ 新霞が関 ビル	坂口代議員 中村代議員	<p>第1号議案 役員の選出について</p> <p>第2号議案 令和5年度事業計画について</p> <p>第3号議案 令和5年度収支予算について</p> <p>報告事項 ウクライナ人道危機及びトルコ・シリア地震への対応について</p>

(4) 支部名譽職員名簿

(令和5年3月31日現在)

役 職	氏 名	備 考
支 部 長	三日月 大造	滋賀県知事
副 支 部 長	江 島 宏治	滋賀県副知事
ク	小 棕 正清	滋賀県市長会長・東近江市長
ク	伊 藤 定勉	滋賀県町村会長・豊郷町長
本 社 理 事	坂 口 康一	近江鍛工株式会社 代表取締役会長
本 社 代 議 員	坂 口 康一	近江鍛工株式会社 代表取締役会長
ク	中 村 美尾枝	赤十字奉仕団滋賀県支部委員会顧問
支 部 監 査 委 員	漣 藤 寿	長浜市公平委員
ク	北 村 嘉英	草津電機株式会社 代表取締役会長
評 議 員	前 竹 英雄	大津市地区 選出
ク	竹 内 俊彦	ク
ク	軒 艶子	彦根市地区 選出
ク	八 和 裕行	ク
ク	磯 谷 直一	長浜市地区 選出
ク	浅 見 宣義	ク
ク	山 口 幸代	近江八幡市地区 選出
ク	小 西 木理	ク
ク	高 木 富砂子	草津市地区 選出
ク	橋 清 和	ク
ク	川 水 岡	守山市地区 選出
ク	岸 龍 年	ク
ク	竹 村 健子	栗東市地区 選出
ク	芝 原 道子	ク
ク	岩 永 裕貴	甲賀市地区 選出
ク	林 木 邦	ク
ク	栢 生 邦	野洲市地区 選出
ク	福 井 正	湖南市地区 選出
ク	小 棚 正	高島市地区 選出
ク	大 塚 清	東近江市地区 選出
ク	平 尾 ふ	ク
ク	西 田 道雄	米原市地区 選出
ク	有 村 秀治	東近江地区 選出
ク	野 濬 国知	湖東地区 選出
ク	市 川 喜久	ク
ク	高 木 忠 稔	支 部 長 選出 滋賀県健康医療福祉部長
ク	田 富 砂子	ク
ク	中 滋 規	ク
ク	大 道 良 夫	ク 滋賀県青少年赤十字指導者協議会会长
		日本赤十字社滋賀県支部有功会長

(敬称略)

3 全国赤十字大会への参加

名誉総裁皇后陛下、名誉副総裁各宮妃殿下のご臨席を賜り、5月19日に、東京都渋谷区の明治神宮会館において、来賓、赤十字社員の代表など約500人の出席のもと全国赤十字大会が開催されました。

式典では、国家斉唱、社長あいさつに続き、名誉総裁から赤十字事業の推進に尽力された会員の代表13人に有功章の授与が行われました。

滋賀県支部からは、本社理事1人、有功会会长、青少年赤十字指導者協議会会长、有功章社員2人、奉仕団関係者1人、支部事務局長の計7人が出席しました。

4 会議・職員研修会の開催

(1) 会議の開催

ア 地図分区および施設職員を対象とした会議

名 称	開催日	会 場	対象及び出席者数	内 容
赤十字事務担当主任者会議	4月25日(月)	滋賀県農業教育情報センター	日赤事務担当主任者	<ol style="list-style-type: none"> 赤十字のしくみと活動 新型コロナウイルス感染症への対応について 令和4年度事業計画及び歳入歳出予算の概要 地区・分区における業務について その他
赤十字施設業務連絡会議	5月31日(火)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)及び支部・各施設の人事総務担当課長等 計15人	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応 本年度支部監査委員による監査 職員研修 <ol style="list-style-type: none"> 滋賀県支部主催研修 第4ブロック主催研修 本社主催研修 青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会の開催 寄付金付自動販売機の設置及び寄付実績 令和4年度災害救護訓練予定 令和4年度赤十字救急法等講習の普及 今後の予定等 <ul style="list-style-type: none"> 評議員会の開催 支部有功会総会の開催
赤十字施設業務連絡会議	12月2日(金)	日本赤十字社滋賀県支部会議室	支部事務局長、施設事務部長(血液センターは事業部長)、及び支部・各施設の人事総務担当課長等 計10人	<ol style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症への対応 令和5年度滋賀県支部・赤十字施設の監査の実施 職員研修 <ol style="list-style-type: none"> 滋賀県支部主催研修 第4ブロック主催研修 本社主催研修 その他 指定事業社資を活用した救護資機材整備計画 その他 <ol style="list-style-type: none"> 寄付金付自動販売機の設置状況 全国赤十字大会への施設長等の参加 令和5年度災害救護訓練予定 今後の予定 <ul style="list-style-type: none"> 令和4年度評議員会
赤十字事務担当課長(幹事)会議	12月7日(水)	Web開催	担当課長等18人 事務局 5人	<ol style="list-style-type: none"> 令和4年度の主な取り組みについて 新型コロナウイルス感染症への対応について 令和4年度活動資金募集進展状況について 令和5年度主要事業計画(案)について 令和5年度赤十字活動資金募集目標額について 令和5年度赤十字奉仕団主要事業計画(案)について

イ 地区分区赤十字事務打ち合わせ会

支部職員が地区分区を訪問し、赤十字活動にかかる情報共有を行うとともに、地区分区交付金の管理、救援物資の在庫状況等の確認を行いました。

訪問日	地区分区	出席者数
10月21日(金)	米原市	地区担当者 1人 支部職員 2人
	長浜市	地区担当者 2人 支部職員 2人
10月25日(火)	大津市	地区担当者 2人 支部職員 2人
	高島市	地区担当者 1人 支部職員 2人
11月9日(水)	湖南市	地区担当者 2人 支部職員 2人
	野洲市	地区担当者 2人 支部職員 2人
11月15日(火)	豊郷町	地区担当者 2人 支部職員 2人
	愛荘町	地区担当者 1人 支部職員 2人
11月18日(金)	甲良町	地区担当者 1人 支部職員 2人
	多賀町	地区担当者 1人 支部職員 2人

(2) 職員研修会の開催

名 称	開催日	会 場	対象および出席者数	研修内容
令和4年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第1回)	10月4日	ピアザ淡海	支部・施設の勤続 10年を迎える 職員 37人 講師 1人 事務局 5人	1 第一線で働く中堅職員に求められる立場と役割を再確認する。 2 役割を果たすために必要なコミュニケーション能力を身につける。 3 マンネリを打破し、組織へ積極的に働きかけをしていく意識を向上させる。
令和4年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第2回)	10月14日	滋賀県立 県民交流 センター	支部・施設の勤続 10年を迎える 職員 36人 講師 1人 事務局 5人	
令和4年度 支部・施設10年目 中堅職員研修 (第3回)	11月30日		支部・施設の勤続 10年を迎える 職員 39人 講師 1人 事務局 4人	

5 会員増強運動の推進と実績

(1) 会員増強運動の推進

5月を「赤十字会員増強運動月間」として、ひとりでも多くの方々に赤十字の思想・活動を理解していただくとともに、赤十字会員への加入、高額活動資金や法人活動資金の拡充強化に努めました。

本年度会員増強運動に使用した資料は次のとおりです。

ア	赤十字会員増強運動実施要項	150部
イ	小冊子（リーフレット）	5,500部
ウ	ポスター	3,050部
エ	赤十字活動チラシ	508,000部
オ	赤十字会員募集のてびき	3,500部
カ	広報用DVD	25部
キ	活動資金領収書	198,500部
ク	法人に対する活動資金協力依頼状	17,500部
ケ	個人情報の取扱いに関する啓発パンフレット	1,100部
コ	法人向けチラシ①	7,000部
サ	法人向けチラシ②	6,500部

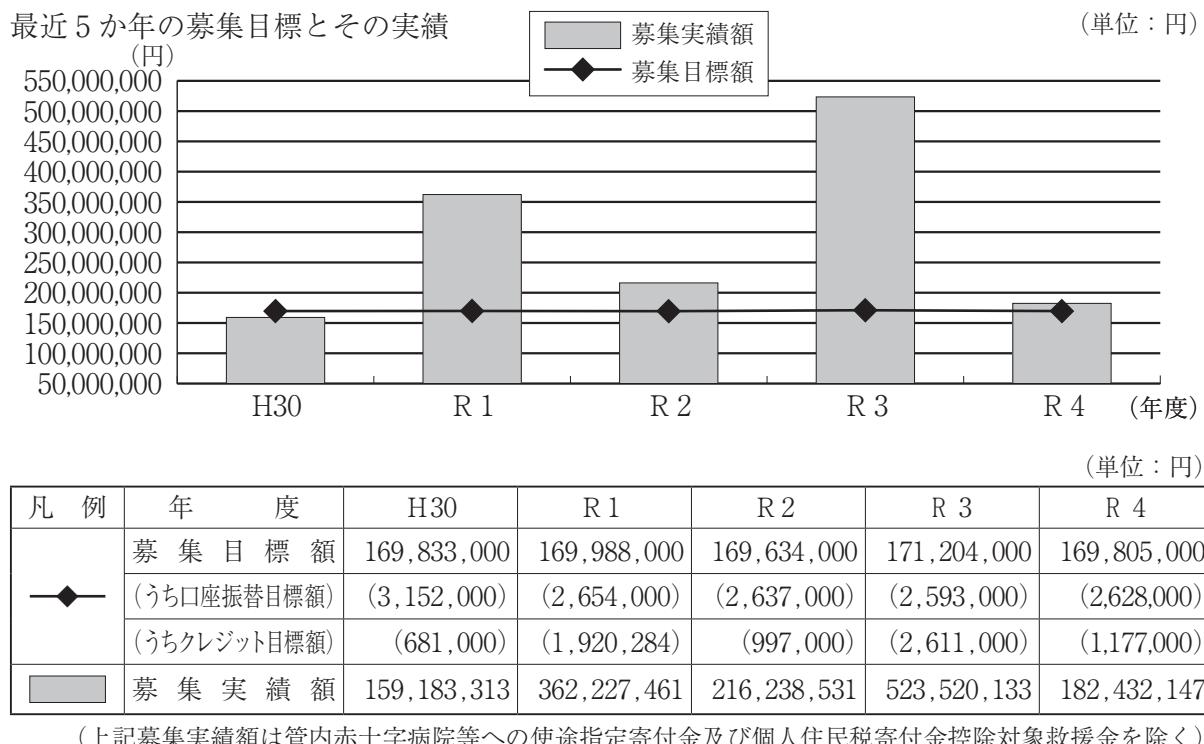
(2) 令和4年度活動資金募集実績

各市町の標準世帯数の40%以上を「500円会員」、28%以上を「1,000円会員」として募集することを目標とし、県民の皆さんに支援と協力を依頼したところ県民各位や法人各社と地区分区の協力により、別表のような実績を上げました。

令和4年度活動資金募集実績

令和5年3月31日 現在
日本赤十字社滋賀県支部

地区分区名		募集目標額 A (円)	地区分区・ 支部収納額 B (円)	支部による募集実績額内訳				収納額合計 G=B+C+D+E+F (円)	達成率 G/A (%)	
				赤十字しが C (円)	個人DM D (円)	口座振替 E (円)	クレジットカード F (円)			
市地区	大津市	33,888,000	10,360,019	516,643	6,294,356	985,000	2,270,000	20,426,018	60.3%	
	彦根市	10,577,000	4,358,876	71,000	4,645,500	227,000	114,000	9,416,376	89.0%	
	長浜市	14,756,500	7,747,200	63,000	1,763,100	231,000	140,000	9,944,300	67.4%	
	近江八幡市	10,042,000	5,693,012	94,000	414,000	250,000	161,000	6,612,012	65.8%	
	草津市	6,691,000	4,372,252	148,000	1,666,000	412,000	1,006,400	7,604,652	113.7%	
	守山市	8,707,000	7,025,797	220,000	1,257,007	36,000	86,000	8,624,804	99.1%	
	栗東市	6,799,000	3,637,256	5,000	1,021,000	143,000	287,000	5,093,256	74.9%	
	甲賀市	12,104,500	9,010,901	89,000	426,000	44,000	43,000	9,612,901	79.4%	
	野洲市	5,840,500	3,315,065	87,000	437,000	70,000	36,000	3,945,065	67.5%	
	湖南市	5,959,000	3,341,897	25,000	408,800	51,000	95,000	3,921,697	65.8%	
	高島市	6,742,500	4,308,959	78,000	292,313	14,000	40,000	4,733,272	70.2%	
	東近江市	14,410,500	12,617,906	146,000	607,369	122,000	78,000	13,571,275	94.2%	
	米原市	5,614,500	5,719,150	45,000	488,500	58,000	23,000	6,333,650	112.8%	
	市地区計	142,132,000	81,508,290	1,587,643	19,720,945	2,643,000	4,379,400	109,839,278	77.3%	
地区分	東近江	日野町	2,797,500	2,451,858	0	81,000	0	30,777	2,563,635	91.6%
		竜王町	1,760,500	975,500	30,000	13,000	10,000	0	1,028,500	58.4%
		東近江計	4,558,000	3,427,358	30,000	94,000	10,000	30,777	3,592,135	78.8%
	郡地区	愛荘町	2,489,000	2,327,443	35,000	68,000	16,000	24,000	2,470,443	99.3%
		豊郷町	951,500	956,935	40,000	417,000	48,000	0	1,461,935	153.6%
		甲良町	1,093,500	940,000	10,000	10,000	0	0	960,000	87.8%
		多賀町	1,164,000	1,090,950	13,000	30,000	0	0	1,133,950	97.4%
		湖東計	5,698,000	5,315,328	98,000	525,000	64,000	24,000	6,026,328	105.8%
		郡地区計	10,256,000	8,742,686	128,000	619,000	74,000	54,777	9,618,463	93.8%
	地区分区計	152,388,000	90,250,976	1,715,643	20,339,945	2,717,000	4,434,177	119,457,741	78.4%	
支	部	17,417,000	62,797,906	21,000	155,500	0	0	62,974,406	361.6%	
支部・地区分区計		169,805,000	153,048,882	1,736,643	20,495,445	2,717,000	4,434,177	182,432,147	107.4%	
個人住民税寄付金 控除対象救援金		-	11,948,275	-	-	-	-	11,948,275	-	
病院使途指定寄付金		0	10,100,000	-	-	-	-	10,100,000	-	
合計		169,805,000	175,097,157	1,736,643	20,495,445	2,717,000	4,434,177	204,480,422	120.4%	



(3) 個人向けダイレクトメールによる活動資金募集実績

過去に支部へ活動資金の協力があった個人をはじめ、本社から提供のあった支援金・救援金・海外たすけあい協力者を対象にダイレクトメールによる活動資金募集を行いました。

	送付件数	応諾数	応諾率	協力金額
11月発送	7,553件	881件	11.7%	20,495,445円

(4) 法人活動資金募集の実績

ア 法人活動資金の実績

	予算額	実績額
指定寄付金	5,400,000円	5,396,310円
損金算入限度額特例扱寄付金	9,600,000円	30,191,966円
合計	15,000,000円	35,588,276円

※指定寄付金として募集した額は、救護資機材等の整備費に充当しました。

イ ダイレクトメール(DM)による募集

年3回(7月・11月・2月)発送のダイレクトメールにより、法人に対して活動資金の募集を行いました。

	発送数	応諾数	応諾率	協力金額
7月発送分	6,677件	390件	5.8%	9,701,500円
11月発送分	6,265件	96件	1.5%	2,707,359円
2月発送分	303件	26件	8.6%	385,000円
合計	13,245件	512件	3.9%	12,793,859円

【発送条件】

7月発送分：支部保有法人データ全件

帝国データバンクから購入した売上高5千万円以上の法人

11月発送分：7月にDMを発送した法人のうち、未応諾の法人

2月発送分：一昨年、昨年に協力いただいた法人のうち、未応諾の法人

ウ 訪問による募集

支部職員、地区分区事務職員、奉仕団員が法人を訪問し、活動資金の募集を行いました。

	依頼件数	応諾数	応諾率	協力金額
17 地区分区	1,837件	1,405件	76.5%	6,703,808円

エ 法人会員向けステッカーの作成・配布

日本赤十字社を支援していただいている事実を表すために、法人会員向けステッカーを作成し、活動資金として2,000円以上のご寄付があった法人を対象に配布しました。

(5) 企業・団体等とのパートナーシップ構築の推進

ア 募金箱による協力

設置数 25か所

金額 230,512円

イ 寄付金つき自動販売機による協力

設置数 25か所

金額 1,639,360円

ウ 赤十字支援マークの使用

4 法人

エ 経済団体と連携した活動

① 滋賀県中小企業団体中央会、滋賀県中小企業青年中央会が主催する、お仕事体験・学習オンラインイベント「しがわーくランド2022」へ後援参加し、献血推進動画「おしゃえて！けんけつちゃん」を出展しました。

② 全国中小企業団体中央会・全国中小企業青年中央会主催の組合青年部全国講習会に活動紹介パネル、救護物資等の出展を行いました。

オ 遺贈・相続財産寄付の受け入れ体制の構築

株式会社滋賀銀行と、遺言を活用した遺贈寄付に関する協定を締結し、滋賀銀行と連携して、遺贈を希望される方の思いをスムーズに実現できる体制を構築しました。

(6) 赤十字会員数

会員数（年額2,000円以上協力者）

	会員数	増減（前年度比）
個人（人）	4,767	+ 17
法人（法人）	2,124	- 183
合計（人・法人）	6,891	- 166

（令和5年3月31日現在）

(7) 有功章等受章者数

	個人	法人	合計
紺綬褒章	0	0	0
厚生労働大臣感謝状	3	0	3
社長感謝状	14	9	23
金色有功章	11	11	22
銀色有功章	16	13	29
支部長表彰状	13	15	28
特別社員章	186	-	186

（令和5年3月31日現在）

6 災害救護活動

日本赤十字社は、災害対策基本法により「指定公共機関」として位置づけられるとともに、災害救助法では国および都道府県に対する救助への協力義務が規定されています。

また、滋賀県支部は、滋賀県と「災害救助法による救助等に関する委託契約書」を締結しており、避難所での生活環境の整備及び被災者に対するこころのケア、医療、助産及び死体の処理に関する事項を実施することとなっています。

令和4年度は、コロナ禍により中止とされていた各種訓練が再開され、赤十字医療施設の救護班要員を派遣し、能力の向上に努めました。

(1) 災害救援物資及び弔慰金の配分状況

地震、火災、風水害などの自然災害、人為災害時に全壊、全焼、流出の世帯に対し、支部備蓄の救援物資の配布や死亡者に対して弔慰金を配分しています。

令和4年度は次のとおり救援物資及び弔慰金の配分を行いました。

ア 災害救援物資

物資名	数量	物資名	数量
毛布	48枚	大判タオル	43本
緊急セット	29個	タオル	32本

イ 弔慰金

2件：死者2人、配分額 20,000円

(2) 義援金、海外救援金の受付状況

令和5年3月31日現在

義 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
平成30年7月豪雨災害義援金	46,269	46,228,155
令和2年7月豪雨災害義援金	114,858	27,053,572
令和4年3月福島県沖地震災害義援金	644,212	654,212
令和4年7月大雨災害義援金	585,959	同左
令和4年8月3日からの大雨災害義援金	675,141	同左
令和4年台風第15号災害義援金	629,839	同左
計	2,696,278	73,935,939

救 援 金 名	金 額 (円)	
	本年度分	累 計
中東人道危機救援金	1,110	同左
バングラデシュ南部避難民救援金	1,112	同左
アフガニスタン人道危機救援金	58,646	468,168
ウクライナ人道危機救援金	12,443,857	18,585,214
2022年アフガニスタン地震救援金	352,840	同左
2022年パキスタン洪水救援金	354,581	同左
2023年トルコ・シリア地震救援金	18,670,145	同左
計	31,882,291	38,433,170

(3) 救護資機材の整備

災害対応能力強化のための資機材として、県内医療施設に救護服および安全靴、非常食、トイレセット、折り畳み式リヤカー、無線機骨伝導ヘッドセット等を整備しました。また、災害救護対応に要した医薬品にかかる費用の助成を行いました。

(4) 訓練及び研修

ア 近畿府県合同防災訓練（滋賀県総合防災訓練）

10月15日から16日にかけて、滋賀県湖北地域（長浜市・米原市）で「令和4年度近畿府県合同防災訓練」が実施されました。滋賀県支部では、現地災害対策本部設置及び現地合同本部連絡会議運営訓練、現地救護所設置運営訓練、避難所アセスメント、災害ボランティアセンター非常態勢移行・機動運営訓練、災害時炊き出し訓練などに参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員） 21人

（滋賀県支部 3人、大津赤十字病院 9人、長浜赤十字病院 9人）

防災支援赤十字奉仕団員・無線赤十字奉仕団員 4人

イ 日本赤十字社第4 ブロック合同災害救護訓練

6月18日、奈良県田原本青垣生涯学習センター（奈良県磯城郡）を主会場に日本赤十字社第4 ブロック合同災害救護訓練が実施されました。滋賀県支部は大規模災害が発生した際、近畿2府4県の赤十字支部・施設が連携し、救護活動が展開できるよう各種救護訓練等に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員）38人

（滋賀県支部 3人、大津赤十字病院 13人、大津赤十字志賀病院 9人、長浜赤十字病院13人）

大津赤十字看護専門学校学生 35人

防災支援赤十字奉仕団員・無線赤十字奉仕団員 14人

ウ 東近江市総合防災訓練

9月4日、東近江市総合運動公園で東近江市総合防災訓練が実施されました。滋賀県支部では現地救護所設置運営訓練、災害ボランティアセンター設置運営訓練、災害時炊き出し訓練に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員） 13人

（滋賀県支部 3人、大津赤十字病院 10人）

防災支援赤十字奉仕団員・無線赤十字奉仕団員 6人

エ 大津市総合防災訓練

9月24日、大津市立田上小学校を主会場に大津市総合防災訓練が実施されました。滋賀県支部は、現地救護所設置運営訓練、災害ボランティアセンター設置運営訓練、災害時炊き出し訓練に参加しました。

【参加者数】

救護班要員等（赤十字職員） 12人

（滋賀県支部 2人、大津赤十字病院 10人）

防災支援赤十字奉仕団員・無線赤十字奉仕団員 5人

オ 救護員としての赤十字看護師研修（合同災害救護演習）

11月4日、災害時の救護活動に必要なトリアージ等の技術の習得や、組織における自己の役割の認識、指示・命令系統の理解等を目的に、大津赤十字病院と長浜赤十字病院の会場に分かれ、合同災害演習を実施しました。

【参加数】

訓練会場		大津赤十字病院	長浜赤十字病院
	看護師	大津（25人）志賀（2人）	長浜（22人）
参加者(数)	その他職員	大津・志賀（7人）・ 支部（1人）	長浜（7人）・支部（1人）
合計		35人	30人

カ 日本赤十字社本社主催の災害救護関係研修会への参加

① 災害医療コーディネート研修

令和5年1月21日・22日、日本赤十字社本社において、災害医療のコーディネーションの知識習得やコーディネート活動の考え方の共通認識を図る目的で研修が実施されました。

【参加者数】

研修参加者 1人（長浜赤十字病院）

指導スタッフ 1人（長浜赤十字病院）

※感染防止対策のため定員を縮小して実施

② 原子力災害対応基礎研修会

日本赤十字社では、救護班要員等が放射線環境下での救護活動に安全かつ安心して従事できることを目的に放射線や緊急被ばく医療体制等にかかる基本的知識および放射線防護資機材の使用方法を習得するための研修会をブロック単位（隔年）で実施しています。

12月8日から12月9日にかけて日本赤十字社京都府支部主催で開催された第4ブロック合同研修会に、滋賀県からも研修参加または指導スタッフとして参加しました。

参加者 1人（長浜赤十字病院 1人）

指導スタッフ 1人（長浜赤十字病院 1人）

キ こころのケア研修およびこころのケア指導者養成研修

① こころのケア研修

被災者および救援者である救護員へのこころのケアの重要性について理解を深めるとともに、救護員自身のこころのケアに関する対処方法の取得を目的として実施しました。

	大津赤十字病院	長浜赤十字病院
実施日	6月23日、27日	6月25日
修了者人数	30人	20人
指導スタッフ	5人	8人

② こころのケア指導者養成研修（11月16日～17日）

災害時におけるこころのケア活動は、救護活動における重要な柱のひとつであることから、本社では、その要員を養成する「こころのケア指導者養成研修」を実施しており、令和4年度は、大津赤十字病院から1人が参加しました。

（5）救護員の登録状況

常備救護班は医師を班長として1人、看護師長1人、看護師2人、主事1人、自動車操作要員1人の計6人をもって1班とし、大津赤十字病院に4個班、大津赤十字志賀病院に1個班、長浜赤十字病院に3個班を常備編成しています。

(6) 救護資材整備状況および救援物資備蓄状況

ア 救護資機材整備状況

品 名	保 有 数	品 名	保 有 数
災 害 救 援 車	2	業 務 用 無 線 基 地 局	2
災 害 用 通 信 指 令 車	1	車 載 型 業 務 用 無 線 機	15
救 護 所 用 大 型 テ ント	2	携 帯 型 業 務 用 無 線 機	25
救 護 所 用 テ ント 空 濡 装 置	2	衛 星 携 帯 電 話	3
天 幕 (3.6 m × 5.4 m)	6	病 院 前 除 濡 設 備 一 式	2
エ ア ー テ ント (大・小)	2	医 療 セ ッ ト 一 式	8
ワン タ ッ チ テ ント	7	移 動 式 炊 飯 器	2
担 架	24	救 護 員 用 雨 具	60
担 架 架 台	5	救 護 員 用 防 寒 具	60
折 し た い 寝 台	31	救 護 員 用 寝 袋	18
発 電 機	4		

イ 災害救援物資の備蓄状況

品 名	保 有 数	品 名	保 有 数
毛 布	9,474	大 判 タ オ ル	457
緊 急 セ ッ ト	1,098	タ オ ル	389
安 眠 セ ッ ト	366	タ オ ル ケ ッ ト	1,190

7 赤十字救急法・健康生活支援講習等の講習普及

(1) 救急法

日常生活などで不慮の事故にあった際、医師などに引き渡すまでの応急手当や救命手当を赤十字奉仕団、学校、企業等を対象に実施しました。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
一般普及講習(基礎講習)	20	397
一般普及講習(救急員養成)	16	322
短期講習	125	3,719

(2) 健康生活支援講習

健やかな高齢期を過ごすための健康維持・増進の思想と、高齢者の自立をめざした介護予防の方法などを指導するもので、赤十字奉仕団、一般住民を対象に実施しました。

区 分	実施回数 (回)	受講人数 (人)
一般普及講習(支援員養成)	3	77

(3) 幼児安全法

子どもを社会の財産として大切に育てるため、子どもに起こりやすい事故に対する応急手当の方法と事故防止、家庭内での看病の方法を中心として子育て支援関係者、保育園・幼稚園の職員、福祉施設の職員等を対象に実施しました。

区分	実施回数(回)	受講人数(人)
一般普及講習(支援員養成)	2	61
短期講習	23	405

(4) 水上安全法

安全に水と親しむための、事故防止や泳ぎの基本と自己保全、水の事故に遭った際の救助や手当の方法などの知識と技術を習得するもので、学校関係職員を対象に実施しました。

区分	実施回数(回)	受講人数(人)
一般普及講習(救助員I養成)	1	7
短期講習	10	317

(5) 講習指導員の研修

滋賀県支部に所属する救急法、水上安全法の各指導員に対し技能維持を目的とした指導員研修を実施しました。

対象指導員	実施回数(回)	受講人数(人)
救急法・水上安全法	1	39

(6) 各種講習指導員数

講習種別	ボランティア(人)	職員(人)	総数(人)
救急法	97	58	155
水上安全法	21	1	22
健康生活支援講習	14	19	33
幼児安全法	20	24	44

(7) 防災教育の普及

近年の防災・減災に対する関心の高まりをうけ、地震や風水害などの自然災害に対する正しい知識や災害時の備えなどを学ぶ防災教育を、学校、地域、赤十字奉仕団等に対して実施しました。

対象	実施回数(回)	受講者数(人)
自治会等	11	480
赤十字奉仕団	8	520
学校関係	9	788
企業	0	0
その他	4	127
合計	32	1,915

(8) 滋賀県安全法指導員協議会

救急法・水上安全法の指導員資格を有する者をもって会員とし、講習普及や人命尊重と苦痛の軽減に寄与することを目的に結成されており、支部の講習計画に基づき、県内の講習普及に努めています。

会員数は、救急法155人、水上安全法22人の計177人（重複者8人）

名 称	期日等	出席者（人）	内 容
第1回役員会	5月17日	9	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和3年度事業報告ならびに収支決算について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和4年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）について</p> <p>2 会費の取り扱いについて</p>
定期総会	6月4日	36	<p>1 令和3年度事業報告ならびに収支決算</p> <p>2 令和4年度事業計画（案）ならびに収支予算（案）</p>
第2回役員会	12月19日	8	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和4年度事業実施状況について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和5年度事業計画（案）について</p>

8 赤十字奉仕団

赤十字奉仕団は、市町の地域毎につくられる地域奉仕団と社会人や学生などによって組織された青年奉仕団、また特殊技能者が集まった特殊奉仕団があります。

赤十字思想の普及や災害救護など、赤十字事業の推進にあたるとともに、地域の状況に応じた福祉活動など幅広い活動を展開しています。

(1) 設団状況

ア 地域奉仕団

地域別	団数（団）	分団または班数 (団または班)	団員数（人）		
			男	女	計
市	43	524	879	10,500	11,379
町	7	76	125	1,283	1,408
計	50	600	1,004	11,783	12,787

イ 青年奉仕団

名 称	団員数（人）		
	男	女	計
滋賀県青年赤十字奉仕団はなまる	2	3	5
大津赤十字看護専門学校学生奉仕団めだか	10	81	91
計	12	84	96

ウ 特殊奉仕団

名 称	団 員 数 (人)		
	男	女	計
滋賀県無線赤十字奉仕団	13	2	15
滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団	51	17	68
滋賀県防災支援赤十字奉仕団	30	13	43
計	94	32	126

(2) 地域赤十字奉仕団の活動

ア 赤十字奉仕団滋賀県支部委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
4月13日	県支部委員16人 指導講師 5人	滋賀県農業 教育情報 センター	1 新役員の選出 2 令和3年度事業報告および会計収支決算について 3 令和4年度事業計画および会計収支予算について 4 赤十字奉仕団基本目標について
11月7日	県支部委員14人 指導講師 4人	滋賀県農業 教育情報 センター	1 令和5年度赤十字奉仕団員研修旅行について 2 令和4年度赤十字奉仕団男性団員研修会の振り返り 3 令和4年度奉仕団員数について 4 報告事項 • 奉仕団会計用振込用紙の変更について
1月19日	県支部委員15人 指導講師 4人	滋賀県農業 教育情報 センター	1 令和5年度の赤十字奉仕団員研修旅行について 2 令和4年度事業の実施状況について 3 令和5年度事業計画（案）について 4 報告事項 • ボランティア保険の加入状況にかかる調査結果について

イ 赤十字奉仕団滋賀県支部常任委員会

開催日	出席者数	会 場	内 容
6月1日	常任委員8人 指導講師5人	滋賀県支部 会議室	1 令和4年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会の振り返り 2 令和4年度赤十字奉仕団副委員長研修会について 3 令和4年度赤十字奉仕団中央委員会の報告について
8月25日	常任委員7人 指導講師3人	滋賀県支部 会議室	1 令和4年度赤十字奉仕団副委員長研修会の振り返り 2 令和4年度赤十字奉仕団男性団員研修会について 3 報告事項 • ボランティア保険の加入に関する実態調査について
12月13日	常任委員7人 指導講師5人	滋賀県支部 会議室	1 令和5年度の奉仕団員研修旅行について 2 令和4年度事業の実施状況について 3 令和5年度事業計画（案）について
3月16日	常任委員8人 指導講師4人	滋賀県支部 会議室	1 令和5年度基本目標について 2 令和5年度赤十字奉仕団委員長会議・研修会について 3 赤十字奉仕団斡旋物資について 4 報告事項 • ハートラちゃんカフェについて • ボランティア・リーダー研修会（本社主催）の参加報告 • 奉仕団広報誌の配布について

ウ 赤十字奉仕団委員長会議・研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
4月19日 ・20日	奉仕団委員長 49人 指導講師5人	コラボしが21	1 基本目標と奉仕団活動 2 仲間づくりを進めるために 3 赤十字奉仕団委員長とは 4 重点目標事業活動報告 (1) 長浜市湖北赤十字奉仕団 (2) 近江八幡市赤十字奉仕団 5 グループワーク テーマ：「委員長としての思いとこれからの取り組み」 6 グループワーク発表・まとめ 7 コロナ禍における奉仕団活動 8 日本赤十字社の組織と活動資金の募集について 9 奉仕団事務取扱について

エ 赤十字奉仕団副委員長研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
6月29日	奉仕団副委員長 47人 常任委員 8人 指導講師 4人	コラボしが21	1 赤十字と基本目標について 2 副委員長に期待すること 3 日本赤十字社の組織と活動資金の募集について 4 グループワーク テーマ：「副委員長としての思いとこれから の取り組み」 5 グループワーク発表・まとめ

オ 赤十字奉仕団男性団員研修会

開催日	参加者数	会 場	内 容
10月4日	男性団員46人 常任委員 7人 指導講師 4人	コラボしが21	1 赤十字と奉仕団活動 2 日本赤十字社の組織と活動資金の募集について 3 赤十字の人道活動に男性の力を！ ～実践事例から学ぶ～ 4 グループワーク テーマ：「男性団員として今取り組んでいる こと・今後取り組みたいこと」 5 グループワーク発表

カ 赤十字奉仕団中央委員会

開催日	出 席 者	会 場	内 容
5月30日 ～31日	県支部委員長	日本赤十字社 本社	1 中央委員会常任委員について 2 各ブロック赤十字奉仕団委員長会議等の報告 3 令和4年度日本赤十字社事業計画について 4 日本赤十字社の地域包括ケアの取り組みについて～令和3年度までの取り組みと今後の の目指す姿～ 5 講演 「地域での支え合いと防災・減災」 6 活動事例の紹介 7 分科会 【テーマ】一人ひとりのいのちと健康、尊厳 を守るためのより良い地域作り 「支えあい、見守り、つなげる」赤 十字奉仕団の役割と活動を考える 8 分科会まとめ

キ 赤十字奉仕団中央委員会常任委員会

開催日	出席者	会場	内 容
12月2日	県支部委員長	日本赤十字社 本社	1 令和5年度赤十字奉仕団中央委員会日程および協議事項について 2 役員改選について

ク 令和4年度赤十字ボランティア・リーダー研修会

開催日	出席者	会場	内 容
1月28日 ～30日	奉仕団委員長 1人	日本赤十字社 本社	1 赤十字について 2 赤十字の基本方針と奉仕団活動 3 リーダーシップ 4 赤十字と奉仕団 5 ニーズの重要性 6 活動を計画する 7 振り返り

ケ 日本赤十字社のボランティア活動の実態に関する基礎調査

開催日	参加者数	会場	内 容
10月14日	奉仕団委員長 および委員長 経験者 8人 指導講師1人 支部職員2人 本社職員1人 調査委託業者 2人	滋賀県支部 会議室	日本赤十字社が令和2年に定めた長期ビジョンの中で、重点的に取り組む社会課題に貢献するための戦略の一つに、「奉仕団等ボランティア主体の活動の拡充」を掲げている。 この戦略に基づき、日本赤十字社の特性を生かし、かつ実現可能な「新たな方向性」を議論するための全国調査に向けた準備として全国5支部を対象に基礎調査が行われることとなり、滋賀県支部が調査対象に選出され、奉仕団員への調査が行われた。

コ 赤十字奉仕団一日研修会

奉仕団員の意識を高揚し、眞の奉仕者組織としての健全な奉仕団の育成を期するため、今年度も15郡市地区が、それぞれの主催で一日研修会を開催し、団活動についての講演、DVD上映、事例発表等を行いました。

地区別	開催日	人数(人)	地区別	開催日	人数(人)
大津市	10月20日	77	彦根市	11月26日	55
長浜市	11月11日	132	近江八幡市	11月20日	245
草津市	12月5日	69	守山市	10月19日	170
栗東市	11月29日	38	甲賀市	9月13日	95
野洲市	10月22日	67	湖南市	10月20日	57
高島市	7月5日	96	東近江市	11月22日	188
米原市	10月19日	102	東近江	11月10日	70
湖東	11月10日	73			

サ 赤十字奉仕団広報紙の発行

発行日	発行号	発行部数(部)
8月25日	第64号	18,300
3月15日	第65号	17,000

シ 重点目標事業の推進

赤十字奉仕団重点目標に関連した奉仕団活動の活性化を図るため、3団を対象奉仕団として指定し、助成を行いました。

実施期間	奉仕団名	令和4年度交付額(円)
令和4年4月1日～令和6年3月31日	栗東市	25,000
	野洲市中主	25,000
	東近江市能登川	25,000
合計		75,000

ス 地域赤十字奉仕団入団促進のための取り組み

奉仕団への入団促進と団活動の活性化を目的に運用している「地域赤十字奉仕団特設サイト」において、各団および各地区における特色ある取り組みを紹介する記事などを合計28回掲載しました。また、男性団員の入団促進と活動メニューの共有を図るため、「男性のための赤十字ボランティアガイド」を1,500部作成し、県内奉仕団に配布しました。

(3) 青年赤十字奉仕団の活動

事業名	開催日	参加人員(人)	場所
第1回滋賀県赤十字奉仕団研修会(ハイブリッド形式)	4月23日	1人	参加者自宅
令和4年度青年赤十字奉仕団全国協議会(Web会議)	4月23日・24日	1人	参加者自宅
第1回連絡協議会	4月28日	5人	滋賀県支部
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会代表者会議	5月15日	1人	大阪府支部
第2回滋賀県赤十字奉仕団研修会	7月31日	5人	滋賀県赤十字血液センター
第3回滋賀県赤十字奉仕団研修会	10月29日	2人	長浜赤十字病院 原子力災害対応施設
第4ブロック青年赤十字奉仕団リーダー養成研修会	11月19日	1人	大阪府支部
第2回連絡協議会	12月10日	4人	滋賀県支部
海外たすけあい街頭募金活動	12月10日	4人	JR草津駅
「はたちの献血」キャンペーン街頭啓発活動	1月8日	6人	ピエリ守山
第4回滋賀県赤十字奉仕団研修会	2月5日	2人	滋賀県支部
「2023年トルコ・シリア地震救援金」街頭募金活動	3月5日	3人	JR草津駅
青年赤十字奉仕団第4ブロック協議会役員会(Web会議)	3月25日	1人	参加者自宅
第3回連絡協議会	3月26日	3人	滋賀県支部

(4) 滋賀県無線赤十字奉仕団・滋賀県防災支援赤十字奉仕団の活動

令和4年度においては、防災学習の指導、研修会への参加などの活動を行いました。
主な活動は下表のとおりです。

事業名および参加行事	開催日	参加人員 (人)	場所
滋賀県無線赤十字奉仕団総会	4月8日	6	滋賀県支部
赤十字無線救護奉仕団第4ブロック連絡協議会役員会	4月9日	1	大阪府支部
守山市赤十字奉仕団防災学習	4月22日	2	守山市民ホール
滋賀県防災支援赤十字奉仕団定期総会	4月23日	11	滋賀県支部
第1回赤十字奉仕団研修会	4月23日	13	滋賀県支部
防災教育事業主任指導者研修	5月10日	1	WEB
大津市赤十字奉仕団防災学習	5月19日	1	大津市役所
東近江市能登川赤十字奉仕団防災学習	6月4日	1	東近江市やわらぎの郷公園
東近江市中野地区自治会連合会防災学習	6月11日	6	東近江市中野コミュニティセンター
高島民生委員児童委員協議会防災学習	6月16日	2	ガリバーホール
第4ブロック合同災害救護訓練	6月18日	13	田原本町社会福祉協議会
赤十字防災ボランティアリーダー養成研修会	6月25日 ～26日	1	WEB
東近江市立五個荘中学校防災学習	6月29日	9	東近江市立五個荘中学校
近江八幡市老蘇学区まちづくり協議会防災学習	7月2日	2	老蘇コミュニティーセンター 1階多目的ホール
滋賀県立八幡高等学校防災学習	7月5日	6	滋賀県立八幡高等学校
甲良町赤十字奉仕団防災学習	7月7日	1	甲良町保健福祉センター
草津市立南笠東まちづくりセンター防災学習	7月9日	4	南笠東まちづくりセンター
第2回赤十字奉仕団研修会	7月31日	20	滋賀県赤十字血液センター
滋賀県立草津高等学校防災学習	8月5日	4	滋賀県立草津高等学校
東近江市五個荘町防災訓練	8月27日	4	東近江市立五個荘中学校
草津市立新田会館防災学習	8月30日	1	常盤東総合センター
東近江市総合防災	9月4日	6	東近江市総合運動公園
はまのサロン防災学習	9月8日	1	浜野会館
速野学区社会福祉協議会防災学習	9月15日	4	びわこ地球市民の森 森づくりセンター
大津市社会福祉協議会防災学習	9月15日	3	田上市民センター
大津市総合防災訓練	9月24日	6	田上市民センター
防災教育事業本社指導者養成研修会	10月1日 ～2日	1	本社
滋賀県総合防災訓練	10月16日	3	滋賀県危機管理センター

守山市立守山小学校防災学習	10月24日	6	守山市立守山小学校
第3回赤十字奉仕団研修会	10月29日	17	長浜赤十字病院
湖城が丘岡山自治会防災学習	11月3日	3	岡山自治会館
大津市社会福祉協議会防災学習	11月6日	3	明日都浜大津ふれあいプラザ
多賀町赤十字奉仕団防災学習	11月15日	2	多賀町中央公民館
高島市立本庄小学校防災学習	11月16日	5	高島市立本庄小学校
近江八幡市土田町自治会防災学習	11月19日	4	近江八幡市総合福祉センター
栗東市立大宝西小学校PTA防災学習	11月25日	2	栗東市立大宝西小学校
近江八幡市島学区まちづくり協議会防災学習	11月27日	5	島コミュニティーセンター
赤十字無線救護奉仕団第4ブロック連絡協議会役員会	12月4日	1	大阪府支部会議室
東近江市市辺町東市辺自治会防災学習	12月6日	1	東市辺自治会館
第4回赤十字奉仕団研修会	2月5日	18	滋賀県支部
矢守自治会防災学習	2月12日	2	矢守草の根ハウス
甲南町赤十字奉仕団防災学習	2月18日	2	甲南町竜法師公民館
野洲市北桜エルダー隊防災学習	2月25日	4	北桜公民館
甲良町立甲良中学校防災学習	3月9日	4	甲良町立甲良中学校
草津市立玉川中学校防災学習	3月23日	5	草津市立玉川中学校
近江八幡市赤十字奉仕団防災学習	3月24日	3	金田コミュニティセンター
野洲市中主赤十字奉仕団防災学習	3月25日	3	コミュニティセンターひょうづ
滋賀県無線赤十字奉仕団役員会	3月27日	2	滋賀県支部

※上記のほか、滋賀県防災支援奉仕団の役員会をWEB会議で13回開催。

(5) 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団の活動

ア 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員会

開催日	参加者数	会 場	内 容
8月23日	4人	日赤滋賀県支部会議室	<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告並びに収支決算について ・令和4年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について ・役員について <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度及び令和4年度における入団者、退団者等の数について ・滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告について
2月17日	5人	日赤滋賀県支部会議室	<p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和4年度事業報告並びに収支決算見込みについて <p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団と滋賀県青少年赤十字指導者協議会の連携について ・団費の納入方法の変更について ・全国賛助奉仕団協議会会報「いとすぎ」の編集について

イ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団総会（書面審議）

開催日	参加者数	会 場	内 容
9月16日			<p>【協議事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度事業報告並びに収支決算について ・令和4年度事業計画(案)並びに収支予算(案)について ・役員について <p>【報告事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度及び令和4年度における入団者、退団者等の数について ・滋賀県青少年赤十字指導者協議会関係の報告について

ウ その他の会議、行事参加

開催日	出席者数	会 場	事 業
7月29日	15人	守山市民ホール	青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会への参加
11月1日	15人	守山市立守山小学校	JRC研究推進委嘱校研究発表会への参加
11月21日	3人	日赤滋賀県支部会議室	滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団並びに青少年赤十字指導者協議会役員打合せ

エ 滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団広報紙「JRC賛助奉仕団しが」の発行

開催日	号 数	部数(部)	内 容
9月20日	第36号	400	令和4年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団事業計画、青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会の開催について、滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会案内等
2月10日	第37号	400	令和4年度滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団役員名簿、滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校研究発表会報告等

(6) 個人ボランティア

赤十字事業の推進を目的として、赤十字病院、血液センターなど県内の各赤十字施設に登録しているボランティアが活動しています。

施 設 名	人 数 ・ グ ル プ	活 動 内 容
大 津 赤 十 字 病 院	47人・ 6グループ	総合案内のお手伝いや図書の貸出し、衛生材料の整理など コンサート開催など
大 津 赤 十 字 志 賀 病 院	22人	音楽会、お話相手、園芸など
長 浜 赤 十 字 病 院	55人	外来者の受付や案内、入浴介助など
滋賀県赤十字血液センター	105人	献血者への文書発送手伝い、献血者処遇品の準備など

9 青少年赤十字

青少年のうちから赤十字の精神を養い、世界各国の青少年と手を結んで健康の増進、国際親善などの活動を通じて、青少年の健全育成を図るため、小・中・高等学校等の児童、生徒を対象として学校内で組織されたものが青少年赤十字です。現在世界の赤十字加盟は192カ国となっていますが、その多くの加盟国で青少年赤十字活動が取り入れられています。

令和4年度は、1922（大正11）年5月5日に滋賀県野洲郡守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）で、我が国最初の少年赤十字が誕生し、続いて、同年6月16日には伊香郡12か町村（現在の長浜市）の小学校児童約1,900人が全国で第一回に少年赤十字団を結成してから100年の節目を迎える年であったことから、青少年赤十字創設100周年を記念する事業を実施しました。

（1）加盟校の状況

区分	校種別	令和4年度	前年度比
園、学校数	幼稚園等	10	0
	小学校	156	6
	中学校	42	△1
	義務教育学校	2	0
	高等学校	16	0
	特別支援	1	0
	総数	227	5
学級またはグループ数	幼稚園等	63	0
	小学校	2,223	172
	中学校	570	△11
	義務教育学校	21	11
	高等学校	156	8
	特別支援	81	4
	総数	3,114	184
児童・生徒数（人）	幼稚園等	1,326	△66
	小学校	51,746	4,795
	中学校	17,280	340
	義務教育学校	459	295
	高等学校	4,322	△138
	特別支援	376	8
	総数	75,509	5,234

（2）青少年赤十字創設100周年記念事業の実施

ア 青少年赤十字創設100周年記念 滋賀県青少年赤十字大会の開催

7月29日（金）、守山市市民文化会館（守山市民ホール）大ホールで「青少年赤十字創設100周年記念滋賀県青少年赤十字大会」を開催しました。県内外から青少年赤十字指導者や赤十字関係者ら558人が参加しました。

第1部式典では、青少年赤十字活動100年の歩みを映像で振り返るとともに、青少

年赤十字活動に功労のあった計74の学校・個人等に対し、清家篤日本赤十字社社長と三日月大造日本赤十字社滋賀県支部長から、それぞれ表彰状や感謝状を贈呈しました。

第2部実践活動報告では、守山市立守山小学校JRC委員会と甲賀市立甲南第三小学校の寺川絵理教諭から発表があった後、福岡赤十字病院川口真由美看護師からは「赤十字看護師としての国際活動」と題した報告がありました。

第3部特別記念講演では、元プロ卓球選手の水谷隼氏から青少年赤十字活動に携わる指導者らに向けてエールを送っていただきました。

なお、大会は、令和4年度日本赤十字社第4（近畿）ブロック青少年赤十字指導者研修会および滋賀県青少年赤十字指導者研修会を兼ねた催しとなりました。

イ 「青少年赤十字創設100周年記念 滋賀県青少年赤十字活動実践事例集」の発行

滋賀県内で展開されている青少年赤十字活動の中で、学校教育に取り入れられている多彩な事例を紹介し、JRC活動のさらなる普及と指導者の指導実践の一助となることを目的に、「青少年赤十字創設100周年記念 滋賀県青少年赤十字活動実践事例集」を1,800部作成し、県内の全学校、各都道府県支部などに配付しました。

ウ 滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校 青少年赤十字創設100周年記念研究発表会の開催

11月1日（火）、守山市立守山小学校で「令和3・4年度第45回滋賀県青少年赤十字研究推進委嘱校 青少年赤十字創設100周年記念研究発表会」を開催しました。県内外から青少年赤十字指導者や赤十字関係者ら216人が参加しました。

発表会では、「守っ子JRCのつどい」と名付けられた集会活動の発表や名古屋市立西城小学校とオンラインで繋ぎJRC活動を両校の児童が語り合う「子どもサミット」、公開授業等が行われました。また大阪赤十字病院の河合謙佑さんを招き「国際赤十字のお仕事～世界中の人と一緒に～」をテーマに特別講演をしていただきました。

（3）青少年赤十字指導者協議会郡市支部長会の開催

開催日	会 場	出席者数 (対象者)	協 議 事 項
6月9日	滋賀県支部 会議室 (Web併用)	13人	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和3年度青少年赤十字事業報告について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和4年度青少年赤十字事業計画(案)について</p> <p>2 役員改選(案)について</p> <p>3 青少年赤十字創設100周年記念事業について</p>
3月10日	滋賀県支部 会議室 (Web併用)	18人	<p>【報告事項】</p> <p>1 令和4年度青少年赤十字事業報告について</p> <p>【協議事項】</p> <p>1 令和5年度青少年赤十字主要行計画(案)について</p> <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none">滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団並びに滋賀県青少年赤十字指導者協議会との連携について

(4) 支部主催のトレーニングセンター開催状況

区分	開催日	開催場所	参加者
メンバー・トレーニングセンター指導者事前打ち合わせ会	7月12日	守山市立守山小学校	会長、指導部長、県指導員1人

※トレーニングセンターは新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止となりました。

(5) その他の会議・行事等

区分	開催日	会場	出席者数	備考
指導部役員会	5月12日	滋賀県支部会議室	9人	<ul style="list-style-type: none"> 令和3年度事業報告 令和4年度事業計画（案） 滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて 青少年赤十字創設100周年記念事業について
第1回滋賀県青少年赤十字高校生連絡協議会	6月2日	滋賀県農業教育情報センター	29人	<ul style="list-style-type: none"> 各学校の活動紹介 役員選出 講演：「JRCとの出会いから現在の活動について」 赤十字京都ユース 宮本佳蓮氏
青少年赤十字全国指導者協議会・総会	6月29日	滋賀県支部会議室（Web）	1人 (会長)	<ul style="list-style-type: none"> 役員改選 報告事項 「青少年赤十字活動の推進」 グループディスカッション 「人道の心を道徳教育に取り入れるには」
滋賀県青少年赤十字指導者協議会第74回定期総会（書面審議）	6月30日		222人	<ul style="list-style-type: none"> 加盟校表彰 令和3年度事業報告 令和4年度事業計画（案） 役員改選について
青少年赤十字創設100周年記念国際交流事業	(第1部) 10月2日 (第2部) 11月5日 ～6日	滋賀県支部会議室（Web）	3人	<p>テーマ「気候変動～未来と世界をまもる行動をともに」</p> <ul style="list-style-type: none"> 基調講演 ワークショップ グループディスカッション
第2回滋賀県青少年赤十字高校生連絡協議会	10月27日	県立八幡高等学校	30人	<ul style="list-style-type: none"> 防災コミュニケーションワークショップ（竹ひごタワー） 春季活動内容の検討
指導部役員会	12月21日	滋賀県支部会議室	8人	<ul style="list-style-type: none"> 令和4年度青少年赤十字主要事業報告 令和5年度主要事業計画（案） 滋賀県青少年赤十字指導者協議会第75回定期総会並びに研修会について 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクトについて 滋賀県青少年赤十字リーダーシップ・トレーニングセンターについて JRCしが第29号の編集について

青少年赤十字スター・プログラム	3月21日 25日	・滋賀県支部 会議室 (Web) ・日赤本社	1人	全国の中高生メンバーがオンライン及び日赤本社に集まり、グループディスカッションやフィールドワークを通じて交流を図った。
滋賀県青少年赤十字 高校生連絡協議会春 季スター・プロ グラム	3月28日	・滋賀県赤十 字血液セン ター ・びわ湖草津 献血ルーム	20人	・血液センターの見学や献血の呼 びかけを体験することで献血の 意義や輸血についての理解を深 めるとともに、献血を通じて自 分自身や周りの人の命や健康の 大切さを認識する機会となった。

(6) 青少年赤十字メンバー・加盟校応援プロジェクト事業

青少年赤十字加盟校が行う自主的かつ意欲的な実践活動を支援し、その活動成果を広く普及することにより、青少年赤十字活動の一層の振興を図ることを目的に下記のとおり助成を行いました。

・一般枠

区分	件数	助成額
幼稚園	1件	10,000円
小学校	6件	160,000円
中学校	1件	50,000円
その他	1件	50,000円
合計	9件	270,000円

・特別枠

区分	件数	助成額
高等学校	1件	475,000円
合計	1件	475,000円

(7) 青少年赤十字機関紙「JRCしが」の発行

滋賀県内の青少年赤十字活動を広く周知するため、JRCしが（No.28）を4月1日に発行し、県内の全小中高等学校等に配布して普及に努めました。

(8) 青少年赤十字顕彰碑を改修

平成16年に滋賀県青少年赤十字賛助奉仕団湖南ブロックにより建立された顕彰碑が経年により正面の青少年赤十字マークに劣化が見られたため、100周年を機に改修を行いました。

10 看護師の教育

赤十字看護師の教育は、明治29（1896）年からの長い歴史と伝統を誇る重要な事業の一つであり、災害救護業務の要員を確保するとともに、医療施設の要員充足をはかり、併せて看護師不足に対応すべく優秀な看護師を社会に送り出すことを目的としています。

大津赤十字看護専門学校は大津市小関町に設置され、1学年養成定員を40人とし、本年度は下記のとおり養成しました。

令和4年度の養成人員				令和4年度迄の 養成人員
1年	2年	3年	計	
24人	35人	32人	91人	3,417人

11 国際活動

(1) 「NHK 海外たすけあい」 キャンペーンの実施

12月1日から25日の間、令和4年度「NHK 海外たすけあい」 キャンペーンを本社・支部・赤十字病院・血液センター、NHK各放送局、全国の郵便局、各金融機関等の協力を得て実施しました。また、12月1日(木)に滋賀県共同募金会と支部職員がJR大津駅前広場にて「NHK歳末・海外たすけあい」 街頭募金活動を行いました。

本キャンペーンの募金額は下記のとおりですが、この資金をもとに、日本赤十字社は世界各地の紛争や自然災害、病気で苦しむ人々に対して救援事業や開発協力事業を行いました。

実績内訳

区分		件 数 (件)	金 額 (円)
滋賀県	支部・施設等窓口扱い分	1,063	1,840,612
	本社扱い分	306	3,727,710
	合 計	1,369	5,568,322
全 国	支部・施設等窓口扱い分	38,120	90,218,042
	本社扱い分	45,696	696,870,669
	合 計	83,816	787,088,711

(2) 令和4年度第4ブロック合同国際人道法普及研修への参加

2月24日、日本赤十字社第4ブロック合同による同研修がオンライン形式で開催され、県内各赤十字施設から12人（滋賀県支部3人、大津赤十字病院2人、大津赤十字志賀病院1人、長浜赤十字病院2人、滋賀県赤十字血液センター4人）が参加しました。

12 赤十字思想の普及

赤十字の理念や赤十字の活動について県民の理解を深め、一層の協力を得るため、5月の運動月間をはじめ、年間を通じて広報活動を展開しました。

(1) 本社作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動紹介用リーフレット	赤十字活動のPRと会員募集（5,500部）	地区・分区、各施設活動資金協力者ほか
赤十字運動用PRポスター	赤十字活動のPRと会員募集（3,050部）	地区・分区、各施設ほか
赤十字NEWS	日本赤十字社広報紙（34,600部）	赤十字関係者
全国統一会員誌	会員への情報提供（12,400部）	赤十字会員
活動紹介DVD	日本赤十字社活動紹介DVD「赤十字この一年」	地区・分区、各施設

(2) 支部作成の広報資材の配布

名 称	作製目的・主な内容	主な配布（視聴）対象
活動資金募集用チラシ	赤十字活動のPRと会員募集 (508,000部)	一般
支部広報誌「赤十字しが」	滋賀県支部の事業実施状況報告 (15,000部)	赤十字会員、奉仕団、地区・分区、各施設ほか
赤十字PRパネルB0版	赤十字活動のPRと会員募集	各施設
事業報告書	滋賀県支部の事業実施状況報告	支部役員・評議員、地区・分区、各施設
ポケットティッシュ	赤十字活動PRと地域奉仕団員募集 (36,500個)	地区・分区、奉仕団、各施設

(3) 世界赤十字デー周知キャンペーン

ア 赤十字フラッグの掲揚

- ・期間 5月1日～5月31日
- ・場所 夢京橋キャッスルロード

(4) 主な広報活動

ア テレビスポットによる広報

びわ湖放送株式会社様のご協力を得て、以下のとおりテレビスポットによる広報を実施しました。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放映）
- ・TV-CM 30秒

イ ラジオスポットによる広報

株式会社エフエム滋賀様のご協力を得て、以下のとおりラジオスポットによる広報を実施しました。

- ・期間 5月1日～31日（6月以降も放送）
- ・ラジオCM20秒

ウ JR駅構内でのB2ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～7日

エ 京阪電車への遺贈広告の掲出

- ・期間 2月1日～1月31日（年間）

オ 平和堂、近江鉄道等でのB2、B3ポスターの掲出

- ・期間 5月1日～31日

カ SNS (Instagram) を利用した広報活動

幅広い年代に赤十字の活動を身近に感じてもらえるよう、活動紹介や事業の発信を行いました。また、認知度の拡大、フォロワーの増加を目的として、5月の運動月間において、ハッシュタグキャンペーンを実施しました。

キ 懸垂幕の掲出

- ・場所 日本赤十字社滋賀県支部事務所ビル横
- ・内容 人間を救うのは、人間だ。— 赤十字活動資金に協力下さい。—

ク 支部ホームページの充実

不特定多数の方々にPRが図れる広報媒体であることから、当支部をはじめとする日本赤十字社の活動紹介、救急法等の健康・安全講習の案内、青少年赤十字活動の紹介など、更なる赤十字活動の発信に努めました。

(5) 「ACTION！防災・減災」 キャンペーン

東日本大震災から10年が経過した令和3年3月11日を機に、改めて日本赤十字社から防災・減災のメッセージを打ち出し、「風化防止」や「復興支援」にとどまらず、未来に目を向けた「防災・減災への備え」を訴求し、防災意識を高めるため、日本赤十字社では「ACTION！防災・減災」 キャンペーンを全国各地で展開しています。

滋賀県支部は3月1日～3月31日、次の活動に取り組みました。

ア 寄付による支援

本キャンペーンの実施にあたり、以下の企業・団体等からご寄付によるご支援をいただきました。

○ご支援いただいた企業・団体等

甲賀高分子株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、近江ユニキャリア販売株式会社、株式会社シガウッド、ビル管財株式会社、熊谷電工株式会社、株式会社フジケン、三和産業株式会社、滋賀県立八幡高等学校、杉橋建設株式会社、株式会社田中誠文堂、株式会社川嶋機械、草津電機株式会社、花文造園土木株式会社、有限会社CN産業

(計15・順不同)

イ ポスター掲示

期間中、以下の企業・団体等の事業所などにポスターを掲出していただきました。

○ご賛同いただいた企業・団体等

株式会社平和堂、甲賀高分子株式会社、滋賀双葉ビル整備株式会社、近江ユニキャリア販売株式会社、株式会社シガウッド、ビル管財株式会社、三和産業株式会社、滋賀県立八幡高等学校、社会福祉法人米原市社会福祉協議会 (計9・順不同)

13 有功会

日本赤十字社滋賀県支部有功会は、金色有功章を受章され、趣旨に賛同された方々により、昭和48年10月1日、会員58人で発足しました。平成9年から銀色有功章受章者まで会員範囲を拡大し、会員相互の親睦や健康の保持、赤十字思想の普及と重要業務の進展に協力することにより、人類福祉の増進に寄与することに努めています。

(1) 会員の数（個人・法人）

前年度末会員数	本年度新規会員数	退会者 (亡くなられた方を含む)	年度末会員数
360人	15人	25人	350人

(2) 事業内容

ア 有功会総会の開催

6月22日(水) 13時30分から琵琶湖ホテルにおいて開催

75人出席

審議内容

- ・令和3年度有功会事業並びに収支決算報告書
- ・令和4年度有功会事業計画（案）並びに収支予算（案）

イ 特別講演会

「赤十字グループ、総力を挙げてコロナと戦う」

講師 日本赤十字社 特別参与 医療事業推進本部 医療調整監

宮原 保之 氏

ウ 会員懇親会<中止>

エ 日赤紺綏・有功会会長協議会総会

10月6日(木) 14時～20時

大阪市 ANAクラウンプラザホテル大阪

オ 会員親睦旅行<中止>

11月中旬 1泊2日

広島・安芸の宮島

カ 会員健康診断

	2日（1泊）	1日
大津赤十字病院	21人	55人
長浜赤十字病院	3人	10人
合 計	24人	65人

キ 大津赤十字看護専門学校卒業生に卒業記念品の贈呈

令和4年度大津赤十字看護専門学校卒業生32人に卒業記念品〔真空断熱ケータイマグ（水筒）〕を贈呈しました。

- ク 青少年赤十字活動支援<中止>
「青少年赤十字メンバートレーニングセンター」参加記念贈呈
- ケ 災害救護活動支援
防災学習や災害時に救護班が携行するポータブル電源を1台滋賀県支部へ寄贈しました。
- コ 国際活動事業の支援
NHK海外たすけあい 支援金額 30,000円
- サ 法人会員による「ACTION！防災・減災」への協力
協力企業 14社
- | | |
|-----------------|------------|
| 滋賀双葉ビル整備 株式会社 | 甲賀高分子 株式会社 |
| 草津電機 株式会社 | 株式会社 川嶋機械 |
| 熊谷電工 株式会社 | 三和産業 株式会社 |
| ビル管財 株式会社 | 株式会社 フジケン |
| 株式会社 田中誠文堂 | 株式会社 シガウッド |
| 花文造園土木 株式会社 | 有限会社 CN産業 |
| 近江ユニキャリア販売 株式会社 | 杉橋建設 株式会社 |
- シ 役員会等の開催
3月23日(木)
14時からJR大津駅前 滋賀ビル9階 比叡の間において開催
・平成4年度有功会事業報告並びに収支決算について
・令和5年度有功会事業計画(案)並びに収支予算(案)について
・有功会結成50周年特別事業の実施について
・振込用紙の変更について
・役員の改選について

14 一般会計決算概要

歳 入

(単位：円)

年度 科目	令和 4 年度 決 算	令和 3 年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
1 一般社資収入	168,892,146	497,860,246	△328,968,100	33.9	
2 法人社資収入	35,588,276	35,689,059	△100,783	99.7	
3 委託金等収入	0	0	0	-	
4 補助金及び交付金収入	4,286,434	3,018,184	1,268,250	142.0	施設整備交付金、現物給付ほか
6 繰入金収入	13,048,275	4,123,300	8,924,975	316.5	国際救護活動資金繰入金 事業準備積立金繰入金
7 資産収入	193,100	200,400	△7,300	96.4	社宅収入
8 雑収入	2,054,734	1,476,146	578,588	139.2	利子収入、講習等負担金収入、 青少年赤十字等行事参加収入 ほか
9 前年度繰越金	62,108,792	56,775,006	5,333,786	109.4	
歳入合計	286,171,757	599,142,341	△312,970,584	47.8	

歳 出

(単位：円)

年度 科目	令和 4 年度 決 算	令和 3 年度 決 算	比較増減	対前年度比 (%)	付 記
I 災害救護事業費	26,103,910	25,517,149	586,761	102.3	
1 災害救護指導事業費	20,149,754	20,067,614	82,140	100.4	救護員の養成訓練、災害 救助に要した費用
2 災害救護装備費	2,032,456	2,326,395	△293,939	87.4	災害救護資材整備等に要した費用
3 非常災害救援物資整備費	0	0	0	-	
4 救護看護師指導養成費	3,921,700	3,123,140	798,560	125.6	救護看護師の養成に要した費用
II 社会活動費	44,405,435	30,427,676	13,977,759	145.9	
1 救急法等普及費	8,658,774	4,874,014	3,784,760	177.7	救急法、健康生活支援講 習等の普及費用
2 奉仕団活動費	17,805,984	14,500,369	3,305,615	122.8	奉仕団育成に要した費用
3 青少年赤十字活動費	14,541,578	7,916,743	6,624,835	183.7	青少年赤十字育成に要した費用
4 社会福祉活動費	89,460	53,920	35,540	165.9	社会福祉活動に要した費用
5 医療事業費	191,516	67,322	124,194	284.5	衛生普及に要した費用
6 血液事業費	3,118,123	3,015,308	102,815	103.4	血液事業の普及等に要した費用
III 国際活動費	11,948,275	29,172	11,919,103	40,958.0	国際赤十字社等による救援 活動等に要した費用
IV 指定事業地方振興費	14,448,275	3,329,172	11,119,103	434.0	
1 災害救護設備整備費	2,400,000	3,200,000	△800,000	75.0	災害救護資機材に要した費用
2 支部国際活動基金積立金	11,948,275	29,172	11,919,103	40,958.0	国際赤十字社等による救援活 動等の資金積立に要した費用
2 募集事務費	100,000	100,000	0	100.0	社資募集に要した費用
V 地区分区交付金支出	11,741,436	12,510,614	△769,178	93.9	地区分区に対する社員管 理事務及び募集事務等に 要した費用
VI 社業振興費	21,619,058	19,446,288	2,172,770	111.2	広報及び社資募集に要した費用
VII 基盤整備交付金・補助金支出	21,200,000	14,349,376	6,850,624	147.7	
1 施設操出金	10,000,000	5,000,000	5,000,000	200.0	新型コロナウイルス感染症 に対応する県内赤十字施 設への支援費用
2 使途指定寄付金操出金	11,200,000	9,349,376	1,850,624	119.8	医療施設への使途指定寄付金
VIII 総務・管理費	46,042,264	44,427,200	1,615,064	103.6	給与費、庁舎管理等に要した費用
IX 本社送納金支出	27,695,375	78,829,010	△51,133,635	35.1	本社社資送納金
X その他	60,967,729	370,276,684	△309,308,955	16.5	
1 積立金支出	10,780,412	308,167,892	△297,387,480	3.5	施設整備準備資金積立金、 退職給与資金積立金
2 予備費	0	0	0	-	
3 翌年度繰越金	50,187,317	62,108,792	△11,921,475	80.8	
歳出合計	286,171,757	599,142,341	△312,970,584	47.8	

II 医療事業・医療施設特別会計決算概要

県内3つの赤十字病院において、災害時は、救護活動、平時には一般医療・救急医療・健康相談等医療社会活動を実施し、地域住民の医療確保と福祉の増進に努めています。

1 大津赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数				外来患者数			
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	一日平均	対前年比	延人数	一日平均	一日平均	対前年比
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(人)	(%)
684	644	246.0	777.7	445.3	1,469.0	189,208	518	101.8	360,388	1,483	102.2	102.2	

(2) 医療施設の経営状況

令和4年度の医業収益は、新型コロナウイルス感染症の影響による病棟閉鎖等の診療制限もありましたが、患者延数および診療単価の増加により入院、外来ともに大きく増収となり、対前年度9.6億円の増収となりました。対する医業費用は、特に材料費、給与費で大きく増加し、対前年度11.6億円の増加となりました。一方、医業外収益においては、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業費補助金の収入が約20億円と大部分を占めています。これらにより、医業収支では対前年度から2億円マイナスの18.7億円の赤字、総収支では前年度から1.8億円マイナスの4.1億円の黒字決算となりました。

① 病院経営の健全化

・急性期病院としてのDPC係数向上と新規施設基準取得の取り組み

ア DPC特定病院群指定による基礎係数向上

イ 特定集中治療室管理料4の施設基準取得

・手術件数、全身麻酔件数の増加

ア 手術件数 実績：7,050件 (対前年度：+586件)

イ 全身麻酔件数（再掲） 実績：2,158件 (対前年度：+36件)

・重要業績評価指標（KPI）

ア 新入院患者数 実績：44.3人／日 (目標：50人／日)

イ DPCⅡ期以内の退院割合 実績：64.4% (目標：70.0%)

ウ 病床稼働率 実績：80.5% (目標：90.0%)

エ 紹介患者数(検査紹介除く) 実績：18,587人／年 (目標：18,000人／年)

オ 全身麻酔件数 実績：2,158件／年 (目標：2,160件／年)

② 新型コロナウイルス感染症対策

令和4年度も引き続き新型コロナウイルス感染症の対策に追われましたが、より効率的な運用とするなど、日常の診療機能維持に努めた対策を実施しました。

外来患者に対しては、以前より取り組んでいるサーモグラフィによる有熱患者のトリアージや医療用コンテナでの検査対応を行いました。入院患者においては、専用病棟による受入体制を継続しました。それに加え、感染状況を見ながら、一般病棟の面会禁止を制限に切り替えるなど、入院患者さんやご家族への配慮にも取り組みました。また、車椅子型アイソレータ（陰圧式）を導入し、誘導にかかる業務負荷軽減と安心に搬送できる運用を実施しています。

また、病棟での感染拡大を抑えるため、入院時や全身麻酔対象の患者さんには、スクリーニング検査を目的として抗原検査やPCR検査実施を継続しました。

③ 医療の質の確保

ハード面では、前年度改修工事が完了した1号棟2階の内視鏡センターの運用が令和4年4月より開始されました。内視鏡検査室の増室、2台のX線透視検査装置の更新、鎮静化の検査に対応するためにリカバリーエリアを充実させた構造となっています。また、同年4月には外来棟地下1階に心臓血管外科や循環器科の退院後等における外来通院での心臓リハビリを専用に行う心血管リハビリテーションセンターをオープンしています。同年8月には救命救急センター1階にCT検査装置を増設し、救急医療機能の充実を図りました。

マンパワーの点では、外来診療業務の効率化を図るため、電子カルテ代行入力担当としてメディカルアシスタントの配置を進めています。医師の電子カルテ入力業務負担の軽減を図り、診療業務により専念する環境を設けて、医療の質の確保に取り組んでいます。

④ 地域との医療連携

地域医療支援病院として地域の協力医療機関との連携強化等を目的に、新規開業医を含め317件の開業医訪問を実施しました。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響により、前年度に続き地域医療支援病院としての各種研修会や広報活動等が規模縮小となりましたが、オンラインツールを活用したWeb配信により「地域医療連携懇話会」や「市民のためのがん講座」を開催しました。

一方で、高齢者向けワクチン接種が一段落した令和4年10月から2年ぶりに市民向け健康講座「赤十字県民大学」を再開しました。令和5年2月には大津市医師会医師向けに当院の専門治療についての現状紹介と新たな設備である内視鏡センター、ER内CT装置の「病院見学会」等現地で開催したイベントもあり、ウィズコロナを見据えての対応も開始しました。

患者数としては、紹介患者数（検査紹介含む）18,587人と対前年度2,129人増加、逆紹介患者数も20,005人と対前年度1,336人増加しました。令和4年10月から診療報酬上のルールとして200床以上の地域医療支援病院では紹介状なしの初診受診の場合、7,700円以上の選定療養費の徴収が定められましたが、当院ではより紹介患者に対する外来診療へ重点をシフトするために、その金額を11,000円に設定して対応しております。その結果、紹介状をお持ちでない患者さんの初診受診は減少し、診療所を経由した紹介患者数の増加に繋がっています。

⑤ 救急医療・災害医療への対応

高度救命救急センター、総合周産期母子医療センターとして、高度医療体制の充実に向け引き続き取り組みました。大津消防圏内での救急車出動件数は、前年度比約18%増加となり、当院救急センターの救急車による搬送患者数はコロナ禍前の7,132人を超える7,558人対前年度1,106人増加、うち入院患者数は3,254人で対前年度195人増加しました。救急搬送入院率は分母の搬送件数の増加のため前年度の入院率から4.3%減少の43.1%となりました。新生児専用のドクターカーの出動件数は、111件で対前年度3件の減少となりました。

また、県下の基幹災害拠点病院および原子力災害拠点病院として、院外で開催された近畿地方DMATブロック訓練、滋賀県総合防災訓練、大津市総合防災訓練、滋賀県原子力災害訓練等に参加しました。院内では赤十字救護班基礎教育研修会、100人規模で「大規模災害時傷病者受入訓練」は2年ぶりに開催しました。

⑥ 人材育成と確保、職場環境の改善

人材確保の面では、外科系医師の増員による体制充実を図り、特定行為看護師の活動開始やMA（メディカルアシスタント）増員、病棟においては夜間専従看護補助者（ナイトアシスタント）配置等の様々なタスクシフティングを実施しました。

また、医師等の勤務時間の適正化については、平成31年4月に施行された労働時間法制の見直しにより、「残業時間の上限規制」「勤務間インターバル」「年次有給休暇の年5日間の取得義務化」などについて、院内の「医師の働き方改革検討ワーキンググループ」にて検討を行い、医師の労働部分と自己研鑽部分を切り分ける作業を開始し、基準を定めました。引き続き「医師の労働時間短縮計画」の策定を予定しています。

また、国が推進しているデジタルトランスフォーメーション（DX）を意識した取り組みとして、その第一歩としてペーパレス会議の運用開始やその他にもAI問診システムや病床管理システムの導入を行い、業務効率アップによる労働時間の短縮への取り組みも実施しました。

⑦ 接遇、（来院者・職員）満足度の向上

病院機能評価機構の患者満足度調査に参加して、アンケート調査結果の他施設比較により当院の現状を把握して、患者サービス向上のための対策に役立てています。

職員へは、接遇研修の開催の他に、ハラスメント関連の実態調査アンケートの実施、院内報でのハラスメント防止やメンタルヘルス関連記事掲載による周知等により、働き易い職場環境の醸成に努めています。

(3) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和4年度決算額	令和3年度決算額	比較増減	対前年度比(%)
病院収益	23,767,971	22,697,146	1,070,825	104.7
医業収益	20,908,589	19,951,134	957,455	104.8
医業外収益	2,792,914	2,680,341	112,572	104.2
医療社会事業収益	0	0	0	—
付帯事業収益	66,461	65,670	790	101.2
特別利益	7	0	7	—
病院費用	23,353,692	22,104,095	1,249,597	105.7
医業費用	22,781,996	21,625,243	1,156,753	105.3
医業外費用	237,789	172,673	65,116	137.7
医療奉仕費用	176,749	160,582	16,167	110.1
付帯事業費用	153,915	127,555	26,360	120.7
特別損失	4,023	15,745	△ 11,722	25.6
法人税等	△ 781	2,297	△ 3,078	△ 34.0
収支差引額	414,278	593,050	△ 178,772	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	59,095	固定資産	454,786
資産売却収入	0	借入金等償還	2,409
その他資本収入	398,100		
計	457,195	計	457,195

2 大津赤十字志賀病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数			入院患者数			外来患者数				
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	一日前年平均	対前年比	延人数	一日平均	一日前年平均
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)
150	150	17.1	83.9	58.2	159.2	32,278	88.4	95.7	59.512	244.9	107.6	

(2) 医療施設の経営状況

令和4年度は医業収益が2.1%の増収であり、内訳としては入院診療収益マイナス3.7%・外来診療収益プラス12.2%・保健予防活動収益プラス3.4%でした。医業費用は2.5%増加しましたが、材料費は7.3%増加し、給与費はマイナス1.5%でしたが依然対収益72.2%と高い状況です。

新型コロナウイルス感染症拡大や入院の条件の厳格化が進み入院患者数の減少とモバ

イルクリニックを使用し外来患者数は大幅な増加であり、その結果、医業収支は3億4千2百万円のマイナスとなりましたが、総収支は県・大津市保健所等の行政からの要請に積極的に応えることで、結果的に各方面よりの手厚い補助事業を受けることとなり、総収支は6.3億円の黒字となりました。

① 医師および看護師の確保

令和4年度としては増員は無く、医師は整形外科1人の減員があり、看護師は大津赤十字病院へ異動者もあり4人の減でした。医療従事者確保の重要性が今後ますます高まっています。

② 健全経営の推進

地域包括ケア病棟は年間平均72.6%の稼働率を維持できましたが、急性期病棟は感染症対応したこともあり年間平均29.6%、療養病棟は74.7%と落ち込みました。

また、外来診療収益においても回復している様に見えますが、発熱外来の患者増によるもので以前と比べると一般的の患者数は影響を受けています。

③ 病院機能のあり方

2025年超高齢化社会の到来に対応するために、急性期（2F50床）、回復期（3F50床）、慢性期（4F50床）の届出を行い、病棟運営を行っていましたが、療養病棟の安定稼働には至らず、急性期病棟や回復期病棟の安定的運営を目指し、今後も救急医療や地域連携に取り組んでいきます。

また、新型コロナウイルス感染症対応等に見られた、行政からの要請は積極的に対応を行いました。

④ 施設整備・修繕、医療器械の新規購入・更新

新型コロナウイルス感染症患者受け入れのために、モバイルクリニック2棟の設置や救急外来の陰圧化、超音波診断装置を更新しました。

⑤ 病診連携を図り地域医療の確保

平成26年1月よりスタートした医療従事者を対象としたOK（大津北の方）ミーティングはWeb会議となり開催されました。

⑥ 地域住民との交流

平成28年度からの取り組みを継続して「志賀日赤の健康教室」を年5回開催し、そのうちの1回を社会福祉協議会志賀ブロックと共に11月の健康いきいき祭りが再開となりました。

また、当院発行の広報誌「志賀日赤だより」の地元自治会のご協力を得て行っていた全戸配布は堅田および日吉台地域を除き継続して行いました。また、地元自治会の運営する「わにコミュニティーバス」の運行にも協力しました。

⑦ 初期研修医教育および学生実習

大津赤十字病院より初期研修医の地域医療の実習を1カ月交替にて13人の研修医を受け入れました。

また、自治医科大学、滋賀医科大学の学生実習は新型コロナウイルス感染症拡大により受け入れは中止のままであります。

⑧ 災害救護活動への参加

災害救護訓練はすべて中止となりましたが、新型コロナウイルス感染症の拡大は災害であると捉えて新型コロナウイルス感染症陽性者受入最大25床、地域外来検査センター（ドライブスルーPCR検査）と、発熱外来は継続して行いました。

(3) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和4年度決算額	令和3年度決算額	比較増減	対前年度比(%)
病院収益	3,015,204	2,982,302	32,902	101.1%
医 業 収 益	1,967,009	1,926,371	40,638	102.1%
医 業 外 収 益	1,048,195	999,978	48,217	104.8%
医療社会事業収益	0	0	0	—
付 帯 事 業 収 益	0	0	0	—
特 別 利 益	0	55,952	△ 55,952	—
病院費用	2,384,556	2,281,672	102,884	104.5%
医 業 費 用	2,308,982	2,252,243	56,739	102.5%
医 業 外 費 用	60,655	1,773	58,882	3421.0%
医 療 奉 仕 費 用	9,985	22,661	△ 12,676	44.1%
付 帯 事 業 費 用	0	0	0	—
特 別 損 失	4,934	4,995	△ 61	98.8%
法 人 税 等	0	0	0	—
収支差引額	630,648	700,629	△ 69,981	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	40,444	固定資産	49,817
資産売却収入	0	借入金等償還	185
その他資本収入	9,558		
計	50,002	計	50,002

3 長浜赤十字病院

(1) 診療状況の概要

病床数		職員数				入院患者数				外来患者数			
許可病床	実働病床	医師	看護師	その他	計	延人数	一日平均	一日前年比	延人数	一日平均	一日前年比		
(床)	(床)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(人)	(%)	(人)	(人)	(%)		
492	491	108.1	595.0	245.1	948.2	137,485	377	100.5	236,975	979.2	105.4		

(2) 医療施設の経営状況

・収支の推移

新型コロナウイルス感染症の影響はあったものの、入院・外来患者数は増加し、診療単価も増加したことから医業収益は増収となりました。

医業外収益は、運営費補助金等収益として、新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金（35億1百万円）等の交付があり総収支に大きく影響しました。

医業費用においては、材料費・給与費・委託費・設備関係費・研究研修費・経費すべてにおいて増加となりました。特に、材料費では新型コロナウイルス感染症防止対策による診療材料費の増加、入院患者数の増加に伴う医薬品費の増加などによる影響により、対前年度比約2億4千7百万円の増加となりました。また給与費では、新型コロナウイルス感染症に対する職員への処遇改善等の費用により増額となりました。収支差引額として、医業収支では△7億9千5百万円の赤字となりましたが、総収支は、新型コロナウイルス感染症入院病床確保支援事業補助金等により、30億2千9百万円の黒字となりました。

・患者数と病床利用率の推移

入院・外来患者数ともに増加しました。病床利用率は、4東病棟をコロナ対応病床としており、R3年度に続き下がったままとなりました。

外来患者数は、R3年度比診療日数はそのままで5.4%増加となりました。

・診療単価の推移

入院診療単価は、平均在院日数の短縮・DPC係数UP・手術件数の増加・新型コロナ関係の診療報酬算定等により増加となりました。（前年度比1,522円増）

外来診療単価は、院内トリアージ加算の算定等により増加となりました。（前年度比269円増）

① 経営健全化の推進

R3年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症重点医療機関として、受け入れ病床24床（うち重症7床）を確保しつつ、地域の医療機関との連携体制を図るとともに湖北地域の中核病院として急性期医療を推進し経営改善に努めました。

また、経費の節減として適切かつ計画的な人員配置に努め、購入物品の見直しと配置定数の見直しを行います。

- | | | | |
|-------------|-------------|------------|---------|
| 1. 新入院患者数 | 10,138人 | 2. 平均在院日数 | 11.9日 |
| 3. 病床稼働率 | 76.7% | 4. 紹介患者数 | 14,929人 |
| 5. 紹介率、逆紹介率 | 99.1%、66.7% | 6. 救急搬送入院率 | 42.1% |
| 7. 手術件数 | 5,027件 | 8. 全身麻酔件数 | 2,177件 |

② 新型コロナウイルス感染防止対策の強化

R3年度に引き続き、入院患者への面会禁止、院内トリアージの徹底、緊急入院患者への新型コロナウイルス抗原定量検査および術前患者へのPCR検査を実施しました。

当院は、2種感染症指定医療機関として重要な役割を担うこの地域の中核病院であると共に、救急・災害・周産期母子医療・精神医療の中心的な役割を持っています。新型コロナウイルス感染症重点医療機関として平日休日を問わず受け入れ病床24床（うち重症7床）を確保し対応いたしました。

県内全域より中等症患者の直接の入院や、他病院からの重症化の兆しのある患者および妊婦・透析患者・小児患者など、他の医療機関で受入困難な患者等の受け入れも行いました。

③ 災害救護・原子力災害医療体制の強化

新興感染症の対応も考慮した、研修・訓練の企画運営をし、院内大規模災害訓練では、コロナ前とほぼ同等規模（保健所や、傷病者役の看護学生などの院外参加者を含む）参加者220人以上となる訓練を行い、災害体制の充実と強化を図りました。

令和4年度、滋賀県は、内閣府主催の原子力防災訓練開催年で、基幹原子力災害拠点病院である当院は、災害対策本部運営訓練と、避難退避所から被ばく傷病者の受け入れ訓練を実施しました。IAEA（国際原子力機構）の視察団が見学のもと、被ばく傷病者のスクリーニングと除染、重症被ばく傷病者の医療対応訓練を実施しました。また、院内外を対象に原子力災害医療対応基礎研修も2回実施し、原子力災害医療対応の強化を図りました。

④ ドクターカー事業

当院救命救急センターに、総合外傷センターを開設しました。一刻を争う重症外傷に対応するため、防ぎ得た外傷死をなくし、全人的苦痛の緩和を目的としています。その手段の一つとしてドクターカー事業を開始しました。1分でも早く治療を開始し、一人でも多くの命を救い、病気やけがによる後遺障害を少なくすることを目指し、令和4年度は累計328件／活動日数230日（8:30～17:00）出動し医療圏の救命医療に貢献しました。

(3) 施設等整備

施設整備としては、サーバ室空調機更新・非常放送整備を行いました。

機器整備としては、医療用器械備品を一部補助金を財源とし、人工透析装置他3点（支部繰入金）、超音波画像診断装置他3点（新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備）、移動型X線装置（原子力災害拠点病院等施設設備整備補助金）、また自己資金にて血管造影装置・MRI装置・ダビンチXiなど全92点を整備しました。

その他器械備品としては、蓄電池2台（支部より管理換）、簡易隔離ユニット（新型コロナウイルス感染症重点医療機関等設備整備）など全42点を整備しました。

無形固定資産のソフトウェアは、医事会計システムの更新を行いました。

(4) 決算概要

収益的収入および支出

(単位：千円)

科 目	令和4年度決算額	令和3年度決算額	比較増減	対前年度比(%)
病院収益	17,211,505	16,957,481	254,024	101.5
医業収益	13,003,221	12,535,333	467,888	103.7
医業外収益	4,108,562	4,317,577	△ 209,015	95.2
医療社会事業収益	5,483	5,779	△ 296	94.9
付帯事業収益	94,239	98,115	△ 3,876	96.0
特別利益	0	677	△ 677	—
病院費用	14,181,618	12,791,720	1,389,898	110.9
医業費用	13,798,439	12,516,121	1,282,318	110.2
医業外費用	85,018	23,686	61,332	358.9
医療奉仕費用	181,057	145,417	35,640	124.5
付帯事業費用	102,219	100,247	1,972	102.0
特別損失	14,885	6,249	8,636	238.2
法人税等	0	0	0	—
収支差引額	3,029,887	4,165,761	△ 1,135,874	

資本的収入および支出

(単位：千円)

収 入		支 出	
固定負債	40,134	固定資産	1,047,313
資産売却収入	0	借入金等償還	693,944
その他資本収入	1,701,123		
計	1,741,257	計	1,741,257

III 血 液 事 業 概 要

滋賀県赤十字血液センター

血液製剤の均質性・安全性の向上と安定供給の促進および事業効率の改善を通じた健全な経営基盤の構築を目的として広域血液事業運営体制が導入され、近畿ブロック血液センターの令和4年度事業方針に基づき事業を遂行しました。

特に、将来にわたって安定供給を確保していくため、10代、20代、30代の若年層献血者数を増加させていく必要があります。若年層からの献血への理解を得るために、同世代の学生献血推進協議会や各種学生団体と最大限に連携し、初回献血者、複数回献血者数の確保を積極的に行いました。

医療機関から発注される赤血球製剤の95%以上が400mL製剤であることから、400mL献血を推進した結果、全血献血に占める400mL献血の比率は96.8%となりました。あわせて、稼働効率（1稼動あたりの採血数）は事業効率に直結し財政基盤の安定化に不可欠であることから、更なる向上を目指した結果、移動採血1稼動あたり採血数は46.4人となりました。また、移動採血の稼働数は前年度の592稼働から708稼働へと増加しました。

本年度の献血者数は53,164人となり前年度比103.5%となりました。輸血用血液製剤の供給数は163,576単位で前年度に比べ95.6%となりました。

滋賀県は全血採血に優位な採血環境であり成分採血における自給率は低いものの、分割血小板採血の増加等により、県内医療機関には安定的に輸血用血液製剤を供給しました。

(1) 献血および供給状況の推移

年 度	献 血 状 況		供 給 状 況	
	献血者数（人）	対前年度比（%）	供給数（単位）	対前年度比（%）
平成30年度	47,785	101.5	160,605	88.5
令和元年度	50,073	104.8	175,300	109.1
令和2年度	53,176	106.2	160,979	91.8
令和3年度	51,368	96.6	171,170	106.3
令和4年度	53,164	103.5	163,576	95.6

(2) 令和4年度採血の実績

献血者数

	計画（人）	実績（人）	達成率（%）	対前年度比（%）
200mL献血	495	1,356	273.9	101.7
400mL献血	42,891	41,265	96.2	107.1
血漿献血	5,976	5,736	96.0	87.3
血小板献血	4,735	4,807	101.5	97.5
計	54,097	53,164	98.3	103.5

※400比（全血献血に占める400mL献血の比率） 96.8%（令和3年度：96.7%）

(3) 令和4年度供給の実績

供給（県内医療機関への供給単位数）

	計画（単位）	実績（単位）	達成率（%）	対前年度比（%）
全血製剤	0	0	—	—
赤血球製剤	61,000	64,090	105.1	99.7
血漿製剤	17,280	17,366	100.5	94.9
血小板製剤	88,000	82,120	93.3	92.7
計	166,280	163,576	98.4	95.6

※血液製剤は、200mL相当を1単位とした換算数である。

(4) 滋賀県における献血／供給比率

赤血球製剤

年　度	献血（単位）	供給（単位）	献血／供給（%）
平成30年度	75,092	61,669	115.1
令和元年度	77,663	62,744	123.8
令和2年度	81,120	59,843	135.6
令和3年度	78,401	64,270	122.0
令和4年度	83,886	64,090	130.9

血小板製剤

年　度	献血（本）	供給（本）	献血／供給（%）
平成30年度	5,182	7,802	58.2
令和元年度	4,889	9,156	53.4
令和2年度	4,958	8,340	59.4
令和3年度	4,930	8,684	56.8
令和4年度	4,807	8,148	59.0

※平成26年度より血小板高単位献血（20単位）からの分割製剤（10単位2本）施行

(5) 献血推進の取り組み

① 愛の血液助け合い運動

7月1日から31日まで、国・県・日本赤十字社の主催により、多数の後援団体、協賛団体の協力を得て全国一斉に行われました。当県では例年「献血功労者表彰式」を開催しており、令和4年度は7月27日にピアザ淡海ピアザホールにて開催しました。

② 全国学生献血キャンペーン

滋賀県学生献血推進協議会が7月に「学生サマー献血キャンペーン」をJR近江八幡駅において、12月に「全国学生クリスマス献血キャンペーン」を石山商店街においてそれぞれ開催しました。血液が不足する時期でのキャンペーンは効果的であり、大学生たちが同年代の若者に献血への理解と協力を呼びかけました。

③ はたちの献血キャンペーン

1月1日から2月28日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て、高橋ひかるさん、ウルトラマンをキャンペンキャラクターに起用し実施しました。

滋賀県赤十字血液センターは滋賀県と協力し、期間中にご協力いただいた10代・20代（高校生除く・先着500人）の方にポケットサーモボトルをプレゼントするなど若年層を中心とした献血の推進に努めました。

④ 若年層対策事業

＜献血セミナーの強化＞

高校生に対する献血推進を重点的に進めるため、高校生を対象とした献血セミナーを24回実施しました（令和3年度は17回）。従来型の一方向的なセミナーではなく、献血に関するスピーチを学生に考えてもらうような双方向セミナーを初めて行いました。

また、滋賀県赤十字血液センターは若年層確保対策事業として、滋賀県と協働した取り組みを行っています。

＜キャンペーンの実施＞

計3回、学生を対象としたキャンペーンを実施しました。

① 期 間：7月～8月

対 象：学生（先着350人）

記念品：ポケットサーモボトル

主 催：滋賀県

② 期 間：9月～11月

対 象：学生（先着2,000人）

記念品：モバイルバッテリー

主 催：血液センター

③ 期 間：12月～3月

対 象：高校生（先着1,000人）

記念品：モバイルバッテリー

主 催：滋賀県

⑤ めぐる献血プロジェクト

9月7日から令和5年4月30日まで、(社)日本民間放送連盟・(社)日本民営鉄道協会・(社)日本コミュニティ放送協会の後援を得て、今田美桜さん、高杉真宙さんをイメージキャラクターに起用し実施しました。また、「すみっコぐらし」、「東京リベンジャーズ」とのコラボレーション施策も実施しました。滋賀県赤十字血液センターでは、期間中に献血ご協力いただいた方に記念品のクリアファイルをプレゼントしました。